

靜
思
錄

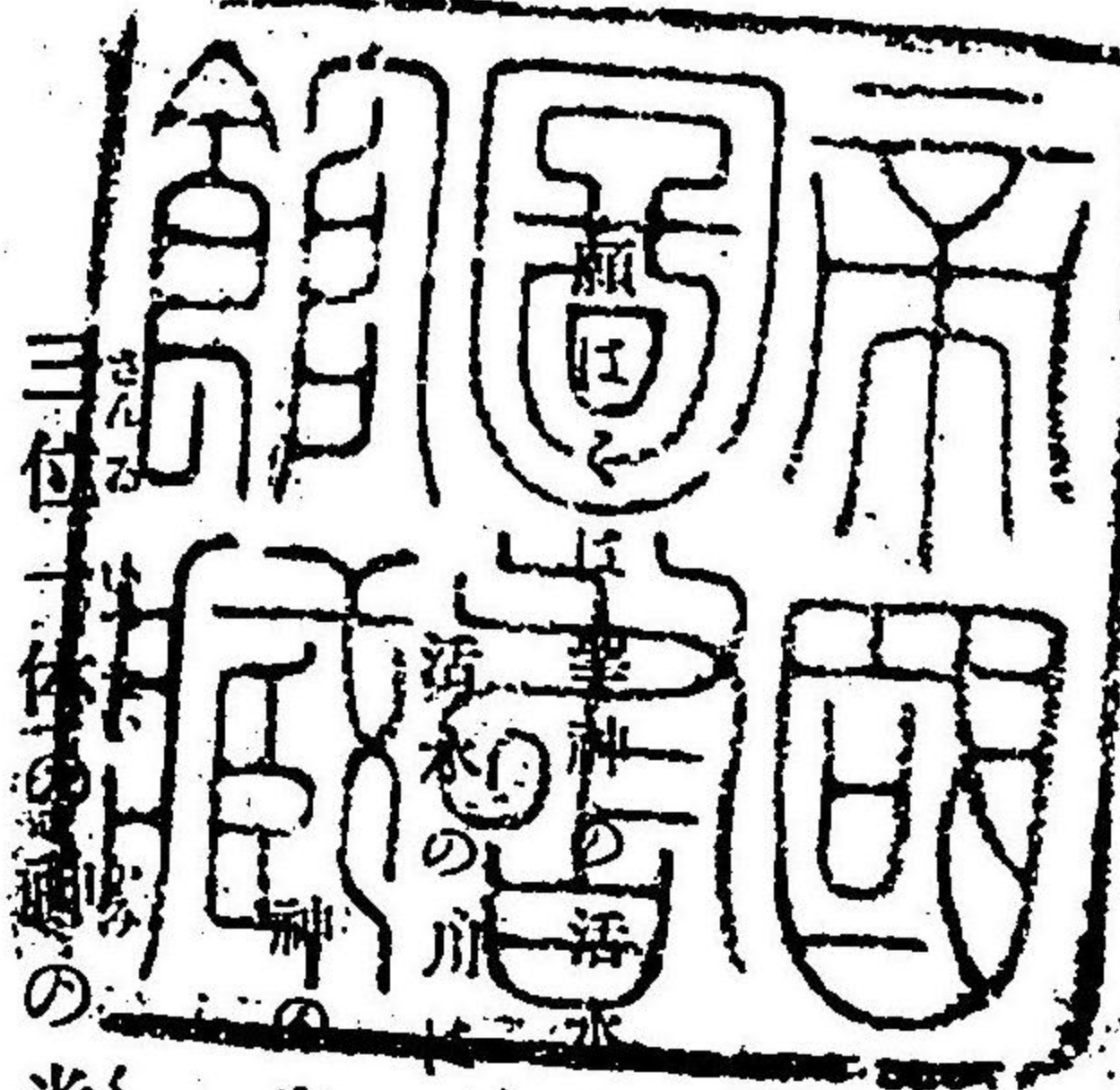
三之卷



Варшавский митрополит
господин Феофан Лавинский

靜思錄

(一)



三位一體の神の光榮の爲に「アミン」

は我が心を盈たし
我が心より流れ出で、
光榮を輝かし神の人々の救贖に益せんことを

イナアン、セルギエフ師述



○主よ我は爾の仁慈と睿智と全能の奇跡なり蓋し我は爾に由りて無
より有に出され今に至るまで爾に由りて存在を保ち爾の子の仁慈
憐矜恤に由りて—我若し爾に忠實ならば—永生を嗣ぐを得るに依り

(二)

爾の子が畏るべき聖なる行爲を以て己自身を犠牲として献りたるを以て我は恐るべき墮落より興され永遠の滅亡より贖はれたるに依る爾の仁慈爾の無限の全能爾の睿智を讃揚す願はくは爾の仁慈全能睿智の奇蹟を我困苦の者の上に行ひ之を以て運命を量り我爾の不当の僕を救ひ我を爾の永遠の國に導き入れ我をして老いざる生命暮れざる日を見るを得せしめ給へ。

○我が心須らく唯一の神に近づかざるべからず唯我神に近づくを以て善とす『聖詠七十二の廿八』而も此心は何ぞ其れ暗昧なる何ぞ顛倒するの甚しき彼は斯世の娛樂に執着し飲食肉体の快樂に執着し此の塵なる金銭に此の朽つる衣服に執着し消ぬ失する花目を眩惑する彩色

(三)

美はしく裝飾されたる寢室等に執着す奇なる哉在天の人なる我ハリステイアニンの心に蟠るものは悉く塵世の事のみにして天のもの甚だ少し我はハリストスに由りて天に移されたるに心にて堅く此世に執着し而して假令此世の事物は我を樂ましむると共に我を惱まし我を苦め我は假令此世の事物の皆恃むに足らず朽ち果て、速に過ぎ去るを見るに拘らず又假令此世の事物は何ものたりとも我が靈を満足せしむる能はず此世の虚事にて常に擾亂され煩はさるゝ我が心を鎮め且つ樂ましむること能はざるを知り之を感覺するに拘らず我は決して天に赴くを欲せずして寧ろ常に此世に在らんことを望むものゝ如し嗚呼我在天の人は果して何時まで此世の人たらんとするか我神の

子「血氣に由るに非ず情欲に由るに非ず乃ち神に由りて」聖洗に於て生れし者約翰一の十三は何時まで肉体と爲り何時まで全心を神に傾けざるべきか。主よ爾の聖神をして我が心を導きて爾に至らしめよ。主よ我が心をして斯世の虚より避けしめよ。主よ爾に依らずしては我何事をも行ふ能はず。

○金銀寶石水晶美服等凡そ此世の光輝燦爛たるものは吾人甚だ之を愛するも主の吾人を招く來世の光榮を愛せざるは何故ぞ吾人が夫の大陽の光輝と等しく光り輝くことを欲せざるは何故ぞ。主曰く「義人等はその父の國に於て日の如く輝かん」と馬太十三の四十三是れ他なし吾人が罪にて己の靈魂の本質を毀傷し天の代りに地に執着し朽ちざる

もの、代りに朽つるものに執着し人目を眩惑する朽つる暫時的の此世の光輝を愛したればなり。そも、吾人が光輝を愛する念の此の如く切なるは何故ぞ。他なし吾人の靈魂は天の光の爲に作られ初めは全体光全體光輝にして光は天然之に賦せられ光の感情希望は天賦のものなればなり。須らく此望を天の光を尋ぬるに傾けよ。

○艶麗の處女若くは婦人を見又は美少年を見る時は直に在天在地のあらゆる美の本原なる高尚至聖の美即ち神に思を注ぎ彼が土より斯かる美を造りたるを以て彼を讃揚し人間の裡に吾人の傷められたる情態に於てすら輝きつゝある神の像の美を驚嘆し吾人若し幸にして光榮の情態を得たらんには吾人の像の果して如何なるべきかを想像

し神聖の光榮にて修飾されたる神の聖人聖天使神の母の美如何なるべきかを推測し吾人の仰ぎ見んとする神の顔の言ひ盡されぬ美を臆想して血肉なる此世の美に眩惑する勿れ情慾は快は快なりと雖も有罪有害にして神に背戾するものたり汝心にて處女又は婦人の美に戀戀たらず乃ち己の爲め總ての美を造りたる唯一の主神に執着し我は過ぎ去る肉体の美にあらず乃ち唯一の神に近づくを以て善とす(聖詠七十二の廿八)と曰へ。

○或事件就中吾人が他人の爲め行ふ神聖なる事件に失敗するよりして起る所の憂鬱の情と面上に現はるゝ慚愧は夫の到る處に吼ゆる獅子の如く吾人を吞噬せんとし吾人をして諸般の失敗を招かしめ諸般

の罪に陥れんとする我等の無形体の敵より出るなり故に蹉跌を招かざらんとせば預め節制祈禱以て能く其事を研究し總ての事に於て完全ならんことを求め悪魔に餘地を與ふべからず若し失敗を招くことあらば憂鬱煩悶せずして宜く神の前に己の罪己の無能を自白し其前に謙遜し自惚心を排して敢て恥ることなく己の罪己の不注意懶惰若くは無能を自認して己の罪を神の慈憐の淵に投じ以て神の矜恤を待み將來己の事業の完全に成功することに幫助を垂れんことを求むべし。

○祈禱及び萬般生活上の事に於て猜疑疑惑及び惡魔的の妄想を避けよ汝の靈目は須らく淡泊真摯に汝の祈禱汝の事業汝の生活の体は悉

く明々瞭々たるべし。

○公衆の祈禱の時に於ては汝の心を傾けて神に向け一瞬時たりとも決して此世の事物に注ぐ勿れ又神の愛の爲め人間の靈魂に對する熱切の愛と其救贖の爲に熱中するの情を懐き恰も大災厄に居る者の爲にするか如く彼等の爲めに祈れ書に曰く人皆奸悪者の誘惑に陥りて災厄に在りと。

○飢ゑたりとて甚しく食を食る勿れ汝の心と身体とを煩はすに至らん食ることなく深思熟考しつゝ養育者たる神のことを記憶し就中彼の朽ちざる食物たる体血のこと己自身を愛の爲に我等に與へて飲食と爲したること并に福音の聖言のことを記憶し悠々として神の榮の

爲め徐ろに食すべし。

○凡そ心を錯亂し恰も其根元を崩壊するが如くし之をして懊惱たらしむるものは皆是れ惡魔より出づるなり何となれば彼惡魔は永遠の錯亂懊惱なればなり只夫れ主は心の安慰なり凡そ勞苦する者及び重きを任ふ者は我に來れ我爾を安んせしめん馬太十一の廿八我平安を爾等に遣す我が平安を爾等に與ふ』約翰十四の廿七情慾熾んなるに従て錯亂懊惱亦甚しく嗜好偏癖強きに伴ふて心を劈く鋭き箭も烈しく昏迷亦益々甚し人間は生涯の大半を心靈的昏迷の裡に送るなり。

○自賛自樂の念萌す時は即ち曰へ我は微々取るに足らざる者なり凡そ我に在るの善事は皆是れ神の恩寵の爲す所なり』爾は何の未だ受

けざりしものを有つか(哥林前四の七)爾等我なくしては何事をも行ふ能はず』約翰十五の五)隣若くは己の或支肢を嫌厭するの念起らば則ち曰へ人間は總体神の手の美なる工なり人間の組織は皆甚だ美なりと。『皆甚だ善し』(創世記一の卅一)。

○神聖の機密に與る者よ汝の義務果して如何汝はハリストスが神の右に坐する處の上に在る事を以て念と爲し地に在る事を以て念と爲すべからず』(哥羅西三の一及二)何となればハリストスの地に降りたるは我等をして天に昇さんが爲なればなり(アカフイスト第八小讚詞)『我が父の家に第宅多し我往きて爾等の爲に所を備へん(約翰十四の二)我等の居處は天に在り(腓立比三の二十)神の貧しき者は福なり天國は彼等

のものなればなり若し爾等の義は學士及び「ファリセイ」等の義に勝らずば爾等天國に入るを得ず(馬太五の三、二十)幼兒の我に就くを容せ蓋し神の國は是くの如き者に屬す』(路加十八の十六)視よハリストスが天より地に降りたる終局の目的彼が己の神聖の機密たる體血を吾人に與ふる最後の目的果して如何なるを。此目的や實に吾人に天國を賜ふに在るなり。汝須らく之を勗めよ。

○驕傲は惡魔なり憎惡も亦惡魔なり嫉妬も惡魔なり姦淫の醜も亦惡魔なり讒誣の誹謗も惡魔なり眞理に對する頑固の疑惑も同く惡魔なり憂鬱も惡魔なり慾は種々なるも諸慾は皆是れ一の「サタナ」の作用にして慾は種々なるも皆是れ「サタナ」の其調子を異にして吠ゆる聲なり

是に於てか人は「サタナ」と一體一靈と爲るなり。神の諸種の事業を行ふに際し多端なる慾の好悪猛烈なる壓迫と悪魔の苦惱に遇は、此痛苦を以てハリストスの名の爲に受くる痛苦と見做し苦難の中に在りて神に感謝しつゝ欣べよ蓋し悪魔は自ら知らずして汝に備ふるに主より賜はるの榮冠を以てするなり。アミン。油断なく悪魔に反抗せよ。

○汝若くは他人に對して驕傲憎惡懦弱短氣を表する人に向て憤る勿れ乃ち汝亦自ら彼等と同一の更に大なる罪と慾とに罹れるを記憶して彼等の爲に祈り温厚以て彼等を遇せよ。若し人過に陥らば爾等屬神の者は溫柔の神を以て之を規し且自ら省みるべし恐らくは爾も亦誘はれん爾等互に荷を負へ人汝を辱め汝心苦しきか須らく之を忍べ是

くの如くしてハリストスの法を盡さん』加拉太六の一二。

○汝は己の靈魂の情態に充分注意するか靈魂は果して健全なるか彼が生きて居る以上は其生命果して堅固なるか而して此世の暫時的の生活安全なりとせんには永遠の生活永遠の安全は何ものを以てか例へば信を以て確保せらるゝか汝の神に對し救世主に對し教會に對する活信は善行を以て溫柔を以て謙遜を以て柔和を以て正義を愛するを以て端正を以て節制廉潔慈憐忍耐順從勞働等を以て汝の靈魂に存するか然らざれば汝の爲す所悉く是空なり汝の靈魂は或は人をし驚嘆せしむるの事業を作すことあらんも自ら亡びんのみ。人若し全世界を獲とも己の靈を損は、何の益かあらん』馬太十六の廿六。

○日は是れ此世の生命の速に過ぎ去る徴候なり朝來り晝至り次で黄昏と爲り夜に入りては日は乃ち全く過ぎ去りたるなり生命の過ぎ去るも亦猶是の如し初め幼時は恰も黎明の如く少壯成年の時は朝及び白晝の如く而して後——神若し賜は——老年は夕日の如くにして其次には死避くべからず。

○人は何くに居るにせよ後必ず家に還るハリストティアニンも亦是の如く其の何人たるを問はず貴顯にせよ平民にせよ富者にせよ貧者にせよ學者にせよ無學者にせよ其の何處に居るに拘らず社會に於て如何なる職を執るに拘らず其の何事を爲すを論せず己れ家に在らすして旅中に在り道中に在りて必ず家に還り父母兄弟と相會せざるべから

ざることを記憶せざるべからず此家は即ち天にして父は神母は至淨の生神女兄弟は天使及び神の聖人は是なり凡そ此世の職務行爲が皆手間仕事にして本事業は靈魂の救贖ハリストスの誠の履行心の潔淨なることを記憶せざるべからず。

○如何にして心を盡し靈を盡し力を盡し意を盡して神を愛すべきか。心を盡してとは即ち心を分たす神に對するの愛と此世并に總體造物に對するの愛とに二分せず例へば祈禱するに當りて二心を懐かす空漠の想像世俗の嗜欲に其心を散せず全く神に居り神の愛に居るの謂なり靈を盡してとは即ち靈魂の或一能力のみを以てせず心と意旨の干與なしに獨り智のみを以てせざるの謂なり力を盡してとは即ち不

充分に若くは輕々にすることなく若し或誠を行ふに際せば銳意熱心汗と血とを注ぎて履行し且つ若し要するに於ては生命を棄つるを惜まずして履行し決して怠惰に優柔不斷に若くは好まざるの心を以てする勿れとの謂なり。

○此世は何ぞ夫れ變轉極まりなきや彼處に愉々快々音樂を奏するあれば此處には葬式の祈禱唱歌と死者を悼む慟哭の聲聞え此處に富貴華奢壯麗を競ふあれば彼處には赤貧洗ふが如く何事にも不足を告げ寒を凌ぐの衣なく室内狹隘汚臭人の鼻を撲ち濕氣滿々たり茲に勇健氣力勃々たるあれば彼處に疾病老耄衰弱あり茲に文化燦然博學多識の人あれば彼處に無學文盲の者あり或は茲に世俗的の開化と共に高

尙なる屬神的の開化敬虔あり二者相合して調和整々屬神的の美觀を呈するあれば彼處に世俗的の開化と共に不信不品行瀟灑し屬神的の醜態斷腸的の不整齊不調和あり茲には万端の企業皆効を奏するに彼處には事皆失敗に歸し茲にては金銀社會に於ける位置名譽勳章等皆容易に得らるゝに彼處にては全力を傾注するも一も得ること能はず若くは非常の力を竭して漸く得る所のもの甚だ微々たり誰か果して此の明々白々たる矛盾の理由を解決する者ぞ之を解決する者は獨り神のみ吾人は唯揣摩するに過ぎず。

○人に對して暴横なる者は神に對しても暴横なり吾人の中に此類の者多し汝は須く人間の裡に壯嚴高貴なる神の像を貴び罪に陥りたる

人間の罪過迷謬は之を寛容せよ然らば主も亦汝を寛容せん何となれば神及び人類の敵は神に對して己の忿狼を洩す能はずして神の像たる人間に向て其恨を晴し己の不淨己の暗黒己の驕傲己の嫉妬等を以て悉く之を人間に報いんとすればなり汝須らく人間を重んじ之を救へ又自ら憤みて怒る勿れ激する勿れ嫉む勿れ侮辱する勿れ偽る勿れ姦淫する勿れ盜む勿れ。

○吾人の靈魂は單純なること思想の如く其の速なること亦思想の如く電の如し彼は瞬間に罪にて傷けらるゝを得朽つべきものに附着するを得瞬間に神と隣に對する愛より離るゝを得不正不義の思想情慾の希望不快の思想より離るゝを得故に吾人は絶えず己の心を警戒し

之をして奸惡の言語若くは想像に傾かしめず乃ち之をして常に神の純樸清潔と神及び隣に對するの愛に居らしめざるべからず。

○吾人の此世に於ける最良の時は吾人が天上の事を深思熟考するの時にして即ち吾人が總體天の住人天の國民たる眞理を識得若くは辨護するの時なり吾人は斯かる時に於てこそ眞に生活する者と謂ふべけれ故に吾人苟も心靈上の眞箇の利益を謀らんとせば成るべく屢々地より上即ち吾人の眞正の生命吾人の終りなき眞正の郷里なる天に思を注がざるべからず。

○汝は人々の種々の娛樂に耽り肉體の事のみを慮るを見て心竊に人間に果して靈魂なるものあるかと思はん若し果して之れあらんには

彼等は何故靈魂の救贖のことを慮らず之を意に介せざるか何となれば靈魂は其死而も永遠の死なる無数の罪に耽ればなり永遠の苦永遠の幸福なるもの果して之れあるべきか若し果して之れあらんには何故に永苦を避けて永遠の幸福を嗣がんことを慮るもの甚だ少く或は全く之を慮る者なきか是れ我の怪訝に堪へざる所なり更に問はんに人々は何故に死の恐るべき時を思ふて恐怖せざるか想ふに吾人は此世に永遠に住するものに非ざるべし早晚吾人に順番來りて汝等人の子たる者亦其の造られたる塵に歸れよと宣言せらるゝことあらんや、吾人の放心吾人の傲慢吾人の此世に戀々たること何ぞ其れ甚しきや罪人よ神には汝等を罰すべきものなしと思ふかア、之れあり大に

之あり火の地獄火の池サタナすら自ら恐怖戰慄する所の恐るべきタル入をして切齒せしむる死せざるの蟲是なり然れども予豈汝等に對してのみ言ふものならんや予は己に對して亦必ず爾か言はざるべからず何となれば予は地獄の苦を備へられたる罪人中の首たる者なればなりされど主は此苦より我を救脱し給ひ我は此の主に一切の望を屬す我が兄弟よ汝等には果して悉くハリストスとハリストスの福音に對する信仰あるか汝等には何くに福音に適ふの生活あるか汝等の中能く此の神の至大の賜生命の法なる福音を日々讀むことだけにても實行する者あるか皆迷ひ均しく無用と爲れり善を行ふ者なし

一も亦無し『羅馬三の十二』

○ 研學中の青年及び未だ業を卒へざる青年は聖堂に詣づること稀にして總體己の靈的教育の事を慮らず恰も之を無用のもの、如くに見做して世俗の空事にのみ醒醒す。此事に對して大に意を注がざるべからず是れ驕傲の結果靈的未發達の結果なり。彼等は聖堂に於ては天使等亦戰々兢々として人々と共に奉事し之を以て至大の幸福と爲す所以を知らず聖堂に詣で公祈禱に與かることを以て凡夫の爲すべき事婦女の爲すべき事と見做す。

○ 公祈禱に冷淡なる所以は甲が其意を解せず乙が奉神禮學を修めたるも其教授方乾燥無味にして例を舉げず獨り理性にのみ之を教へたるが故に非ざるなきか而も奉神禮なるものは智の高尙なる觀察たる

と共に亦専ら心の爲めの平和快樂幸福たるなり。

○ 司祭は靈魂の醫師として自ら靈魂の疾病即ち情欲より蟬脱し以て他人を愈さるべからず又牧者として自ら福音及び諸聖師父の青草繁れる牧野に養はれ何處に於て言語を解する羊を牧すべきかを研究せざるべからず自ら無形の狼と闘ひて經驗を積み以て之をハリストスの羊群より逐ふべき方法を講せざるべからず自ら祈禱と節制とに經驗を積み之を力行せざるべからず世俗の情慾嗜好就中名利を貪るの慾驕傲等に束縛せらるべからず一言以て之を云へば自ら光と爲りて他人を照し自ら靈的の鹽と爲りて他人を靈的の腐敗より預防し自ら情慾の腐敗より免かれざるべからず。然らざれば靈的病者恐らくは

汝に向て曰はん『醫師よ先づ已を醫せ』路加四の廿三然る後我は汝に授くるに已を愈すの方を以てせん『僞善者よ先づ梁木を已の目より出だせ其時如何に兄弟の目より物屑を出だすべきを見ん』馬太七の五

○心の本質たる輕微靈妙在天的なり須らく之を守れよ之を累す勿れ之を俗化する勿れ飲食并に概して身體の快樂は極めて節制せよ夫れ心は神の殿なり若し人神の殿を毀たば神は彼を毀たん』哥林前三の十七。

○汝須らく心に於て「ハリステイア」ニたれ即ち祈禱に於て他人と交際するに於て常に誠實なれ常に信を有ち希望を懐く者溫柔の者惡意を挿まざる者衆人に對して善を望む者正義を重んずる者寡慾の者側

隱の情厚き者矜恤者節制者貞節者恒忍者順從者剛毅の者たれ。

○吾主イエスハリストスは吾人の爲に天より降り已に吾人の靈身を受け吾人の爲め慘苦を受け且つ死したり其の吾人の靈魂と其救贖を重んずるの何ぞ其れ甚しきや我は果して己の靈魂と其永遠の救贖を重んずるか嗚呼我は全然俗界に戀々とし全然怠惰と諸慾とに溺れて我が救主の愛の重んずべき所以を知らず今に至るまで之に相當すること學ばず汝の心に俗世の愛なる淫慾利慾及び驕傲の跋扈する以上は争でか汝に神の愛神の國あるを得ん『肉體を其情及び慾と共に十字架に釘せざる間は之れある能はざるなり』加拉太五の廿四蓋し人は二人の主に事ふる能はず馬太六の廿四世の友たるは是れ神に對し

て仇たるなり(雅各四の四)世をも世に在る物をも愛する勿れ蓋し凡そ世に在る者は即ち肉體の慾目の慾度世の驕是なり世も其慾も逝ぐ惟神の旨を行ふ者は永く存す(約翰一書二の十五至十七)。

○吾人が我等の主神に向て切々倦ます矜恤を垂れんことを請ふ時は神はその切々倦まざることに於て吾人の彼に對する信と望とを見て吾人を嘉みす而も吾等罪人は日々切々吾人に施濟を懇求するの貧者に對して忿激し夫の自ら質樸善良無邪氣なるを以て人を信用すること殊に篤く他人の善良なるを信すること限りなき小兒に對してすら怒ることあり吾人は貪婪多情驕傲にてあり乍ら往々彼等を蔑視し激怒の餘殆と前後を忘却し無邪氣の羊なる彼等を罵倒し其の吾人に向

ひ切々施濟を乞ふ所以のものは饑餓に迫り身に纏ふの衣なく足に穿つの履物なく家賃の滞りて嚴重の催促を受くるが故なるを知るをも欲せざるなり預言者ダウイドの口を藉りて主に向ひ我等のことを愁訴する者は豈彼等に非ずや曰く我等は侮に壓足り我等の靈は驕る者の辱と誇る者の侮に壓足れりと(聖詠百廿二の三四)彼等の愁訴が早晚必ず天に達せんこと固より疑ひなし我又何をか言はん其聲は夙に主「サワオフ」の耳に達し彼の義怒と公義の復讐將に吾人に臨まんとす。○我は他人に施しつゝ未だ曾て何事に於ても缺乏を感じたることなし生涯亦缺乏を感じせざらん蓋し「主は昨日も今日も變らざればなり」(希伯來十三の八)施す者の手は欠乏せずと云ふもの偶然に非ず主は今日

に至るまで我に此世の幸福を増加したるのみにして之を剝奪したることなし。主の鴻慈と其豊富なる照管とを頌讚す。

○ア、司祭よ汝は正教及び教會の代表者汝は主ハリストス其者の代表者なり汝は柔和清潔勇敢剛毅忍耐高雅なる氣風の模範たらざるべからず汝は神の事業を行ふものなり何人に對しても喪心せず諂諛せず屈從せず己の事業を以て人間の總ての事業中最も高尚なるものと見做さるべからず。

○凡そ此世に在りて告解に於て己の品行上に就き報告を爲すに慣るる者はハリストスの畏るべき審判に於て應答を爲すに恐るゝことなからん。且夫れ此世に於て痛悔の短期の審判を設けられたる所以のも

のは我等をして此世の痛悔を経て心を清潔にし悔改してハリストスの畏るべき裁判に出で、耻づることなき應答を爲すを得せしめんが爲なり。是れ誠心毎年必ず痛悔を爲すに至らしむる第一の誘因なり。痛悔せざること久しきに亘るときは吾人自身の爲め益々悪く罪の鎖は益々纏れ隨て應答を爲すこと益々至難と爲るなり。心の安寧は第二の誘因なり。心中の安寧なるに従つて痛悔も誠實と爲るなり。罪は是れ人の心と其全體を咬むの秘密なる蛇なり。罪は人をして安穩ならしめず絶えず其心を吸收す罪は刺多き荆棘にして絶えず靈魂を刺す罪は靈的の暗黒なり。悔改者は須らく悔改の果を結ばざべからず。

○知覺記憶想像感情意思等は悔改を助く吾人が靈魂の總ての能力に

て罪を犯すが如く悔改を爲すにも亦靈魂の全力を以てせざるべからず
 悔改の意なく痛嘆の情を起さず口頭に於てのみ悔改するものは之
 を稱して偽善的の悔改と云ふ罪を認識するの念は昏み易し須らく之
 を明瞭ならしめざるべからず感情は鈍り易し須らく之を發揮せざる
 べからず意旨は遲鈍と爲り悔改の力を失ひ易し須らく之を強制せざ
 るべからず『天國は力を以て得らる』馬太十一の十二。告解は須らく赤
 誠深厚完全ならざるべからず。

○ア、兄弟よ吾人は皆幾もなく地の面より消え失せて空々寂々とな
 るに非ずや造物主の誠命の履行は何處に在るか。ハリストスの神は吾
 人の何處にあるか温和何處にあるか謙遜何處にあるか靈魂に對する

愛何處にあるか此世に對する冷淡何處にあるか屬神的幸福の爲め熱
 中するの念何處にあるか吾人は空虚至愚の人間なる哉吾人は吾人の
 靈魂の像を書し己の生命を書し之を變化轉倒したり吾人はハリスト
 スに悦ばるゝの代り惡魔の歡を求むるに汲々たり。

○此の靜寂美麗にして星宿燦爛たるの天は他日主の天より現はるゝ
 に先ちて恐るべき觀を呈せんとす。ア、罪人よ日々機會ある毎に天の
 觀に就て學ぶ所あれ。日は晦み月は其光を施さず星は天より墮ちん馬
 太廿四の廿九。

○兄弟ハリステイアニン等よ眞誠實際の生命と空虚詐偽的の生命あり。
 飲食し着服し遊戯し富を作らんが爲め概して此世の娛樂若くは煩慮

の爲め并に奸計譎策を運らし他人を誹毀せんが爲め生活するは空虚の生活にして神と隣とに悦ばれ其靈魂の救贖の爲に祈り萬端其救贖を幫助せんが爲めに生活するは是れ眞誠に生活する所以なり前者の生活は絶えざる屬神的の死にして後者は靈魂の絶間なき生命なり。

○主は己の教會を指して『我我が教會を建てん而して地獄の門は之に勝たざらん』馬太十六の十八と云へり此言や教會の牧者若くは教會の神品及び眞誠の悉くの信者并に諸機密正教の總ての定理誠命及び諸儀式例へば聖體禮儀神品婚配領洗傳膏聖油等萬世の爲に制定せられ變更せられず已に數百數千年を経たるものを指して云ふなり主の創立したる教會の堅固なること其れ是の如し汝須らく主の此言を記

憶して機密を行ふ毎に毫も心を動す勿れ須らく半平たること金剛石の如くなれ。

○我は神の聖堂に在りて就中聖高壇に於て神の寶座若くは祭臺の前にて祈禱するを好む何となれば我は聖堂に於て神の恩寵に由りて奇奥妙に變化し痛悔傷心の祈禱に於て慾の荆棘と鎖とは我が靈魂より脱落し我が心爽快と爲り情慾の勢力嬌態は全く消滅して我は恰も世の爲に死し世は亦其諸幸福と共に我の爲に死したる如く我は神に於て且神の爲めに惟一の神の爲に生き全く之に貫れて彼と一神と爲り我は恰も慈母の膝に抱かれて慰撫せらるゝ小兒の如くなりて在天的快絶なる平和我が心に充滿し靈魂は天の光にて照され事々物々見

る所明々白々其見解や正確諸人に對して友誼と愛情とを感じ敵に對しても同様の感を懷き好んで之を寛宥赦免す。ア、靈魂神と共にせば如何に幸福なるよ聖堂は眞に是れ此世の樂園なり。

○人間に取りて最も恐るべきものは果して何ぞ死なるか然り死なり。吾人は皆死すること最後の呼吸を發することを思ふ毎に恐懼の念を起さざるを得ず兩親が愛兒の死するを見其呼吸絶えて己の目前に横はるを目撃したらんには斷腸の念果して如何ぞや然れども兄弟よ過度に恐るゝ勿れ悲む勿れ我等の救主イエスハリストスは己の死を以て我等の死に勝ち己の復活を以て我等の復活の基を開き吾人は各主日各日曜日毎にハリストスに於て吾人の將來の一般の復活を祝ひ

永生の端を啓く此の世の現生は假令狹隘慘憺たる途なるにもせよ此永生に達する短き途なればなり眞誠の「ハリストティアニ」の死なるものは復活の日に至るまでの夢若くは新生命に生れたるものに過ぎず。されば汝は各主日毎にハリストスの復活と自分の死の中よりの復活を祝ひつゝ絶えず罪の爲に死し靈魂にて致死の行より復活することを學び徳を積みて徒らに死者の爲に悲む勿れ須らく死を以て在天の父の命なりとしハリストスの死の中より復活すると共に恐るべき性質を失ひたるものとして懼るゝことなく死を迎ふることを學べよ。
○罪は愚昧且滅亡的なり例へば飲酒家の如き酒精飲料を過度に飲用するより病み煩ひ酔ひ醒むるに及んで思念追懷するだも猶且自ら耻

とする種々の不品行猥褻の事を行ふに拘らず依然沈湎泥醉して止ま
 ず食を貪る饕餮者は大食の後苦痛を感じ才能の味まりて舌の鈍るを
 覺え自ら獸畜の如く爲り若くは獸の如き行を爲すを認め—何となれ
 ば己と偕に住み己と偕に食する者又は日々己に施濟を請ふ者に對し
 て屢々増悪嫉妬の氣を吐くが故—自ら鬱屈憂悶して平和と靜穩を失
 ひ天上の事を思念し若くは眞誠の「ハリステイアニン」を爲りて生存の高
 尙の目的の爲に生活するの能力なき者と爲るを自認するに拘らず依
 然美味を貪り飽食して止まず好色者は荒淫に由りて己の靈魂と身體
 とを汚辱し病を醸し造物主に由りて制定せられたる生活の秩序を紊
 亂し羞辱を受くるを知るに拘らず依然淫亂に耽りて止まず貪利者は

富が己を煩はし精神的の自由を失はしめ己を奴隸と爲し神及び隣に
 對するの愛より遠ざけ眞誠の生命より避けしめ靈魂に死を入れ身靈
 の安慰を奪ひ重き憂慮を負はしむるを知るに拘らず依然巨富を貯ひ
 益々重苦を加へ憂慮に疲れ果て、蓄財に由り己の靈魂を空虚にしつ
 つ病みて死するに至る。驕傲憎悪嫉妬等凡そ罪は皆是の如し。
 ○人は須らく己の裡に此世の愛を殺さざるべからず即ち此世の肉體
 の美味貪禁己の肉體名譽に對するの愛慾を殺して眞誠の故土たる
 天天の國民たる靈魂道德等に對するの愛を燃起し凡そ肉體の愛する
 所のものを惡みその蔑視する所のもの其の恐るゝ所のもの例へば死
 や審判のことを思ふこと若くは赤貧病者困苦の人等を愛すべし。

○汝が何等かの怨の勢力に壓せらるゝ時宜く人をして汝を嘲笑し汝に抗せしむべし汝は決して嘲笑する者抵抗する者に對して激する勿れ彼等は汝に對して善事を爲すものなり須らく自愛の念を制し己の心の不正迷謬を悟得せよされど信の言と行及び敬虔公義等に對して嘲笑する者汝自ら實行し又他人に扶殖せんと欲するの善に抵抗する者の爲には深く痛惜すべし願くは神汝をして彼等に對して忿激せしめざらんことを何となれば彼等は痛惜涕哭すべきものなればなり爾我が救主神我の祈禱に由りて諸怨の壓制より我を救脱したる者に光榮を歸す。

○汝聖堂に在る時は主神の親しく在ます前に在り其顔の前其目の前

に立ち神の母聖天使先輩即ち列祖預言者使徒神品致命者克肖者義人及び諸聖人の面前に立つと思へ聖堂に在りつゝ常に之を記憶思念し敬畏の念を懷き立ちて好んで心にて奉神禮に與かるべし。

○我は徳義的虚無なり主なくんば我に眞に正確なる思想及び善良の感情なく善行なるものあるなし主なくんば我は己より有罪的の思想情慾的の感情例へば憎惡嫉妬邪淫驕傲等を斥くる能はず主は我の思意し感覺し實行する所の總ての善事を完成するものなりア、主の我が裡に動作する恩寵何ぞ其れ無限廣大なるや主は我が爲に一切なり是れ明々白々にして常に然るなり我がものは只罪のみ我がものは只荏弱のみア、吾人は天の吾人をして無より化して有と爲し吾人に賜

ふに己の像と肖とを以てし快絶の樂園に住ましめ全地を征服せしめ
 給へる主を如何に深く愛せざるべからざるか吾人が彼の誠を守らず
 悪魔の眩惑に誘はれ忘恩を以て己の主を限りなく辱しめ己に誘惑者
 の性質たる驕傲憎悪嫉妬忘恩及び凡そ彼誘惑者が吾人を己の囚虜と
 して吾人に誨へたる悪計奸策を受けし時に當り主は吾人を永遠に棄
 てず乃ち罪と詛と吾人の罪に依りて陥りたるの死より贖ひ結局自ら
 地に現はれ吾人の本性を受け自ら我が師と爲り醫師と爲り奇蹟者と
 爲り救主と爲り自ら吾人の爲に刑を受け吾人をして永遠に死せざら
 しめんが爲吾人の爲に死し吾人をして亦死後復活せしめんが爲自ら
 復活し吾人をして罪に由りて墮落したるの天に昇らしめんが爲昇天

し吾人の爲に飲食と爲り光と爲り潔淨と爲り神聖と爲り壯健と爲り
 防禦救贖保護及び矜恤の力と爲り一切と爲れり。
 ○予は無なりされど神品職の恩寵に依り神聖なる体血の授與に由り
 て疾病醫治の第二次若くは第三次の原由と爲り聖神の恩寵は我に依
 りて小兒及び成年の人を更生し奉獻禮儀の機密に於てハリストスの
 体血を行ひ信者をして神性と体合せしめ我に依りて人の罪を釋き或
 は縛り天を閉ぢ或は開き救贖に裨益する忠告規箴等を與へしむ。ア、
 神品職何ぞ其れ貴きや兄弟よ造物主及び救世主が神品に依りて汝等
 に注がるゝ恩惠の如何に大なるを視るか。
 ○憎悪の神の闇霧が吾人の心を圍繞し吾人をして一回若くは數回吾

人を凌辱し若くは吾人に対し悪意を表したる者に對し穩かに言ふこと能はざらしむること屢く之あり宜く熱心主に祈り主自ら此憎惡の闇霧を散じ仁慈と愛とを以て吾人の心に一吾人の敵に對しても一盈てんことを求めざるべからず何となれば夫の敵たる人々は驕傲嫉妬貪婪憎惡の慾に眩惑せられ時として自ら其の爲す所のことを識らざること猶主イエスハリストスの敵が畢生主を窘逐し遂に汚辱の死を以て之を死に致しながら自ら其の爲す所を知らざるが如きことあればなり且つ夫れハリストス教の主旨は乃ち敵を愛するに在ること
を思はざるべからず』蓋し爾等若し爾等を愛する者のみを愛せば何の過ぎたることをか爲さん異邦人も是くの如く行ふに非ずや』馬太五の

四十六四十七、

○「爾等先づ神の國と其義とを求めよ然らば此等のもの皆爾等に加はらん』馬太六の三十三如何にして先づ神の國を求むべきか其法左の如し假りに汝或る此世の俗事に由りて何處にか往き若くは航海することありとせんに先づ主に祈りて汝の心の道を正うせんことを求め而して後其の企てんとする肉体の道をも正うせんことを求め若くは汝の生命の道を彼の誠に循て指導せんことを求め全心を竭して之を切望し屢く其祈禱を反覆すべし然らば主は汝の主の誠に循て歩まんと欲する切實なる希望と盡力とを見て漸々汝の總ての道を矯正せん次に汝若し例へば室内の空氣を清潔にせんと欲し若くは外に出で新鮮

の空気を吸ふて徜徉せんよせば心の清潔と不清潔とを記憶せよ吾人の中室内の空気を新鮮にせんよし是れ賞すべきことなり若くは新鮮の空気を吸ふて徜徉せんよ欲する者多きも神若くは心(即ち屬神的)空氣生命の呼吸を清潔にするの必要に思ひ到らず新鮮の空氣中に生活しながら不淨の思想心の不潔の動作を逞うし甚しきは狼麩の言を吐き肉體の醜行を演ずるに至ることあり若し物質的の光を求めんとせば須らく屬神的の光のことを思へ此光や靈魂の爲め必要にして之れなくんば靈魂は怨の暗黒屬神的死の暗黒にあるなり主曰く『我は光にして世に來れり凡そ我を信する者の暗に居らざらん爲なり』約翰十二の四十六若し暴風雨の狂ひ怒れる態を見其の吼るを聞き若くは破船

覆没の報を読みたらんには日々人間の心中に號泣擾亂を醸し靈魂の屬神的船又は人間社會の船を覆没せんとする人間の情慾の暴風雨のことを思ひ熱切主に祈りて會て一言を發して海上の暴風を鎮めたる如く諸罪の暴風雨を鎮静し吾人の心中より情慾を一掃し常に靜穩を回復せんことを求むべし汝若し饑渴を感じ食ひ或は飲まんと欲する時は則ち須らく靈魂の饑渴のことを思へ(靈魂は公義とイイススハリストスに由りて義とせらるゝ事と成聖とを渴望す)汝若し其靈魂の飢渴を満足せずんば汝の靈魂は怨に壓せられ無力と爲り苦められて餓死するに至らん而して汝は肉體の飢を充しつゝ先づ神と談話し誠心罪を悔い福音の歴史及び福音の修身談を読み就中ハリストスの體血

の神聖の機密を領するを以て靈魂の飢を充すことを忘るゝ勿れ。汝若し衣服を以て華美を競はんと欲する時若くは衣服を纏ふ時は則ち須らく吾人の靈魂の着るべき不朽の義の衣服のこそ若くは「ハリストスに於て洗を受けし者はハリストスを衣たり」加拉太三の廿七と云ふが如く吾人の屬神的衣服たるハリストスイイススのことを思へ。奢侈の慾は心中より靈魂の不朽の衣を思ふの念を全く排除し生涯を化して衣服の華美を競ふの妄想と爲すこと最も屢々之あり。汝生徒たり學生たり官吏たり士官たり若くは技術家たり畫伯たり彫刻師たり製造家たり職工たる者須らく汝等各人の首要たる學問は眞誠の「ハリステアニン」と爲り誠心三位一體の神を信じ毎日祈禱に於て神と談話し奉神

禮に與かり教會の成規律例を遵守し作業の前後及び作業中心にイイススの名を服膺するに在るを記憶せよ蓋し彼イイススは吾人の光明能力神聖吾人の佑助なればなり。

○吾人が如何に切に己の健康を慮り己を護り如何に衛生甘味の食物を食し衛生的飲料を飲み如何に新鮮の空氣に散策するも遂に疾病に罹り腐敗するに至るとは不可思議と謂はざるを得ず。夫の肉體を蔑視し絶間なく節制と齋戒を以て露宿警醒勞働と間斷なき祈禱とを以て其肉體を殺したるの聖人等は己の靈と肉體とを不死にし而して吾人の多く旨き食物を以て養はれたる肉體は死後に臭氣を發し時として存生の時にすら臭氣を發するとあるに聖人の肉體は存生の時にも死

後に於ても芳香馥郁として生色躍如たり吾人が己の肉體を造りながら之を破壊するに彼等は破壊しつゝ之を造り吾人が芳香を以て之に注ぐも其臭氣を避くるを得ざるに彼等は身體に香氣を發することを慮らずして靈魂が神の爲に芳香と爲らんことを慮りて己の身體に香氣を發するに至れり實に不可思議と謂はざるを得ず我が兄弟よ須らく己の生命の本領目的を悟得せよ吾人は宜しく節制勞働祈禱を以て多情多慾の身體若くは肉體の慾を殺すべく美味飽食懶惰を以て身體と其慾とを活かすべからず。

○貧者に施すは諸般の關係に於て幸福なり畏るべき審判に於て矜恤を蒙るの外慈善家は斯世に於ても屢々隣より至大の矜恤を蒙り他人

が大金を投じて受くる所のものも無代にて受くることあり實に至仁至義鴻慈なる在天の父は豈此世に於ても其子を矜恤する慈善家を賞し之を獎勵して益奮て偉大の事業を行はしめ少くとも其慈善の事業を繼續せしめ夫の慈善の事業を嘲笑する薄情冷淡の人をして翻然其心を倭改せしめざらんや主の之を賞すること誠に當然にして且公平なり。

○人類の嫉妬者(惡魔)が吾人をして吾人の隣を嫉視せしめんとして絶えず提起する所の空漠たる口實や甚だ多く汝をして絶えず人に對して怒り絶えず憎惡を逞うし惡魔の地獄破壞的の旨に依りて生活せしめんとするが如し汝は彼の幻影を追ふ勿れ一切仇讎の念を放擲して

衆人を愛せよ蓋し愛は神より出づればなり。

○主よ爾は絶えず我が祈禱に依り我が爲に地獄に勝てり我今日に至るまで猶地獄に在らずとせんには是れ偏に爾の仁慈なり主地獄の勝者よ爾我が恩者救主たる者に光榮を歸す爾微りせば吾人果して如何なる者と爲らん吾人は恐らく眞實の獸と爲りて互に剿滅せん箇人に遭遇する所のもの亦人民に遭遇する所のものに等し箇人及び人民若し爾の福音に従て生活したらんには互に敵視することもなく内亂も起らず干戈を交ゆることもなからん吾人が吾人の此世及び永遠の幸福の爲め福音に循て生活するの必要を豁然大悟するは果して孰の時に在るべきか今日福音を讀む者すら何ぞ其れ寥々たるや、

○主よ身靈の力の生命健康氣力が別荘に在らず林中に在らずして聖堂に於て就中聖體禮儀及び爾の施生的機密に於て爾に在ることを我爾の前に告白す。ア、聖機密や至大の幸福なる哉。ア、聖機密や生命を賜ふものなり。ア、神聖の機密や言ふべからざるの愛なり。ア、神聖の機密や主神の吾人の救贖及び崇敬に關する奇異不斷の眷顧なり。ア、神聖の機密や永生の預象なり。

○至聖生神女我が女宰よ我聖體禮儀を行ふに先だちて爾に祈り我をして多くの力を以て之を行ひ以て神の光榮を揚げ世界と自己の救贖に益する恩寵を賜ふを求めんことを請へり。爾は悉く之を化して善と爲せり。至仁の幫助者速に聽納るゝ者人を辱かしめざるの信頼よ我爾

に感謝す。

(三五)

○ハリストス教の信仰が今日に至るまで我に與へしめたる所の恩恵幾何ぞ他の無数の恩恵は姑く措て言はず只一事に就て云はんに信仰が心中の擾亂と情慾とを驅逐し我が心を鎮靜したること幾何ぞ我が心の歪める傾向を矯正せしこと幾何ぞ罪の清められ靈魂の靈的死より救はれしこと幾何ぞ我が主は何ぞ夫れ信者に近きや彼は空氣の如く我が口の呼吸我が心が我が靈魂の呼吸の如し。

○主よ公祈禱及び私祈禱の際に於ける爾の聖神の恩寵的簸揚の爲め罪の清めの爲め平和傷感熱涙の爲め懇切なる慰藉の爲め勇敢の爲め勢力の爲め誠心爾に感謝す。

(三五)

○汝は司祭たるを以て就中神の民の清淨啓發成聖く改新の爲め又己の改新の爲に祈れよ蓋し汝は屢々新約の血を飲み速に汝を更生改新するを得べき神の羔の施生的の肉を食ふと雖も汝の不注意に依り心の底に於て從來汝に存せし所の慾に溺れて今日に至るまで未だ更生せず未だ改新せざればなり須く己並に神の民の改新に就て神に熱切の祈禱を献げよ是れ神の最も悦ぶ所の献祭なり之を献ぐるに信と堅き望と偽らざるの愛を以てすべし何となれば改新の祈禱は舊衣を廢して新衣を製し舊囊に新酒を盛らんとて來りし者(主ハリストス)に對する馥郁たる薫香にして罪にて腐敗したる人類の更生のこゝろを慮る女宰の意を助くるものなればなり。

○唯々諾々順従を守る者には靈魂の爲に至大の結果あることは吾人が順従の爲め人性に由りて總ての首領權柄及び主制の上に立てられたる主イエスハリストスの例と神の子及び其福音に順従せしが爲め在天の不朽の榮冠と神并にその聖天使と共に永生を享有するを得たる神の諸聖人の例に由りて知る所なり加之順従を守る者には肉體の爲にも亦豊かなる結果あり何となれば懶惰者の失ふ所のもの順従を守る勤勉熱心の者之を得ればなり故に順従は靈魂の爲め及び肉體の爲めに其益あり若し肉體に取りて裨益あらずとせんには靈魂の爲に益なきや論なきのみされば各人須らく惡事に對せず乃ち善事に對して順従なれ。

○謙遜の者と爲ることは自ら認めて罪の爲に諸般の蔑視凌辱窘逐殴打を受くるに相當する者なりと見做すの謂にして溫柔の者と爲るとは惡意を懷かずして吾人に對する不實罵詈等を忍び己の敵の爲に祈るの謂なり。

○汝が故なくして他人の心に刺込む憂悲の刺は報復の嚴重なる法に由りて必ず汝の心にも入るなり曰く何の量を以てか人を量らば是の如く爾等も量られん馬太七の二三汝憂悲するを欲せずんば他人にも之を爲す勿れ。

○若し夫れ世の人々が空々たる俗事の爲め營々役すること斯く久しくして之を終るまで屢吾人をして徒に待たしむることありとせん

は吾人神の役者たる者豈明瞭瞭然に祈禱文を誦しつゝ、悠々明晰意思感情を懐き敬虔熱心を以て主神に事へざるべけんや吾人が彼等を待つよりも寧ろ彼等をして吾人を待たしむべし。主よ願はくば諸般の聖務諸般の機密を行ふ毎に斯くならんことを願はくば爾悉く斯く爲し給へ。蓋し爾なくしては何事をも行ふ能はざればなり。』約翰十五の五。

○眞誠の「ハリストイア」は決して己の此世に於て惡魔の囚虜たることを忘れず凡そ神の子を信じて罪の奴隸より脱せんと務むる者に賜はらんとする屬神的自由の爲に慨嘆して止む時なし眞誠の「ハリストイア」は程能く此の世の事物を利用し小心翼翼々として生活し空談虛戲に光陰を徒費せず貪婪せず嫉妬せず常に祈禱して己の罪を懺悔す。

○説を爲す者あり曰く齋期に不精進物を食するは敢て咎むべきことに非ず齋の主旨は食物にあるに非ず又服装を美にし劇場晚宴假裝會等に往き佳美高價の器具什器馬車駿馬を求め金錢を獲取貯蓄するも亦敢て非難すべきことに非ずと然れども試に思へ吾人の心が生命の源たる神より離れ永生を失ふ所以のもの果して何に依るか。夫の福音に言ふ富者の如く口腹の慾錦衣美服に依るに非ずや劇場假裝會等に依るに非ずや吾人が貧者に對し甚しきは己の親戚に對してすら殘酷と爲る所以のもの何に依るか。是れ吾人が美味衣服高價の器具什器馬金錢等に戀々たるに依るに非ずや汝神と財とに兼ね事ふることを得るか。馬太六の廿四世俗の友と爲り併せて神の友と爲りハリストス

とウリアルルとに兼ね事ふるを得るか否能はざるなり。アダム及びエワ
 が樂園を失ひ罪と死とに陥りたるは果して何故ぞ只夫れ一の食物に
 依るに非ずや吾人が斯くも神の子の貴重視したる己の靈魂の救贖を
 等閑に付し罪に罪を重ね断えず神に抵抗の所爲を爲し空虚の生活に
 陥る所以のもの抑何に依るか宜しく深く之を思へよ是れ皆浮世の事
 物就中此の世の美味に戀々たるが爲に非ずや吾人の心の殘酷と爲る
 は何故ぞ吾人が己の徳義的天性を壞傷しつゝ肉と爲りて靈と爲らざ
 るは何故ぞ是れ豈飲食及び其他此世の幸福に戀々たるが爲に非ずや
 然らば則ち安んぞ齋期に不精進物を食するは咎むべきことに非ずや
 と云ふを得んや吾人が是の如き説を爲す所以のものは是れ驕傲なり

妄想なり神に對する不從順なり神より遠ざかるものなり。
 ○在天の醫師たる主イエスマスハリストスが吾人を如何なる深瘡如何
 なる致死の傷如何なる罪の厭ふべき呼吸より救はんとて來れるか誰
 か能く充分に此理を解するものぞ一人も之なきなり只吾人中の或人
 人が己の經驗に由りて吾人の罪に由りて陥りたる淵の深さを知り善
 に對するの無力なると吾人の心中に蟠れる惡若くは罪の勢力及び深
 淵の一部分とを知るのみ然れども吾人をして之を窺知するを得せし
 むるものも亦是れ吾人の闇昧の心を照らす神の恩寵なり人間は天然
 の智識を以てしては到底之を知る能はず故に矯正の必要を悟了感得
 し之を矯正改新する勢力を有する能はざるなり。

○我仁慈に強く己の能力に善良なるの主が速に我に至大の慈憐を垂れたる爲め且罪の我に加へたる心中の深瘡を愈せしが爲め主に感謝す家裡の長時間の祈禱にて遂げ得ざりし所のものも至高の聖使徒ペトル及びパウルの堂に於て施生的光榮の畏るべき寶座に一たび觸れたるに由りて成れり即ち心中の傷感亂憂悲及び鬱屈は俄に消盡して恰も大山の心より崩れ落ちたる如く我が心中安穩と爲り爽快と爲り綽々毅々乎と爲れり主よ爾の行爲奇異なる哉主よ爾己の光榮の寶座「ハリステイアン」の聖堂に坐する者至公至義の審判者鴻慈の救主及び全能者は奇異なる哉爾の勝たれぬ仁慈に光榮を歸す爾の測るべからざる能力に永遠の王に光榮を歸す。

○兄弟よ神に造られたる物の中には暫時的のもの通過的のものあり夫の無智なる有生無生の造物有機的無機的の造物の如き是なり且世界其者も亦過ぎ去らんとす曰く「蓋し此の世の形状は逝くるなり」と哥林多前七の三十一又永遠不通過的のものあり天使と人間の靈魂及び惡魔と其サタナの如き是なり此世の生命肉體に於ける生命は人間に取りて單に肉體の死後始まらんとする永遠の生命に對する準備たるに過ぎざるのみ故に怠ることなく彼の世に準備せんが爲め此の世の生命を利用し作工日には勵精此の世の生活の爲に勞働しつゝ日曜日及び祭日には奉神禮神言の誦讀神のここの思念靈魂の救贖に益する談話善行就中慈善事業に其の日を送りて全く主神に事へざるべから

す。天上の永生の爲め己の靈魂を養成するの事業を輕んずる者は罪を犯すや重し。人豈己の最後の任務を忘るゝを得んや己の像と肖とに依り不朽的に且己と體合せしめんが爲に吾人を造り己の十字架を以て吾人を贖ひ吾人の爲に天國の門を開きたる造物主に對し争でか爾く忘恩の者たるを得んや吾人の中多くの者安んぞ無智なる獸の如くなり之に倣ふべけんや。聖詠四十八の十三廿一吾人須らく心を上に向けん(聖體禮儀の祝文)。

○肉體は靈魂の一時の衣服として朽ち果るものにて人間の眞誠の生命たるものに非ず眞誠の生命なるものは屬神的の生命のみ試に人間の衣服を裂き之を棄てよ人間其者は依然として生存せん肉體の殺害

後死後腐敗後に於ても靈魂は亦是の如く依然として生活す吾人須らく靈魂と靈魂の救贖とに最も深く思を注がん。

○ア、聖堂よ汝に於て祈ること何ぞ爾く幸福快絶なるや蓋し熱誠燃ゆるが如き祈禱は汝の壁の内神の寶座の前之に坐する者の顔の前に於てするの外何處にか之れあらん眞に靈魂は祈禱の感動に由りて湧け涙は水の如く臉に傳はりて流る衆人の爲に祈るは誠に快し。

○予は神聖なる機密の威嚴施生的なるに驚異す曾て吐血して全く衰弱し一物をも食せざる老嫗は我が授けたる聖機密を領したるに依り其の當日愈え始めたり又曾て全く死したる如き處女は聖機密を領したる後其の當日愈え始め殆ど人事不省と爲り激く悶躁きて毫も飲食

せざりしに食ひ且飲みて發言するに至りたり。主よ爾の施生的畏るべき機密に光榮を歸す。

○常に万事に於て神に忠實なれ『天に在ます我等の父よ』の祈禱を誦せんか獨り神にのみ智と心とを向け何人にも思を注がずして一言毎に誠心敬虔の情を以て唱へよ又他の何等かの祈禱を誦せんか同く心を貳にせず何人にも何物にも思を注がずして赤心より唱へよ吾人の救贖の敵は吾人の神に奉へんとする時就中吾人の心と智とを神より離さんと力め吾人の心と思想とを他の或者に執着せしめんと努む。造次頭沛にも常に神と偕にし就中神に祈禱を献ぐる時神と偕にせよ就中此時には神に忠實渝らざる者と爲れ。汝渝らば生命より離れて憂悲懊

惱の内に己を投せん。

○飲食には急ぐ勿れ而して神の事業は迅速に實行せよ神の事業を行ひつゝ、飲食のことは意に介する勿れ。汝須らく何者の前に立ち何者と談話し何者を謳歌するかを確然記憶せよ。汝全く神と偕にし全く彼の中に屬し心を全うして祈り且歌ひ隣に對しては恰も己の爲にするが如く心と意とを貳にせず欣々然として懇切に事へよ主よ助けよ。爾なくしては何事をも行ふ能はず。『約翰十五の五』。

○心清ければ人間全體亦皆清し心にして清からざれば人間全體亦清からず。蓋し心より出づるものは惡念姦淫邪淫盜竊妄證褻瀆なり……』
馬太十五の十九。夫の聖人等は皆齋戒警醒祈禱神のことの思念神言の

誦讀致命勞働流汗を以て清き心を求め得聖神之に宿りて之を諸の汚穢より清め永遠の成聖を以て之を聖にしたり汝も亦首として心を清むることを努めよ『神よ潔き心を我に造れ』聖詠五十の十二。

○神の賜を評價するに金銀の價を以てする勿れ汝は費なくして受けたれば亦價なくして與ふるの決心を爲せ勞に對するの報酬は機密を受くる者の意に任せ汝の靈的勞働の爲め最小額の價を提出したる者又は提出せんとする者の爲めにも汝は巨額の報酬を提出する者の爲に勞すると等しく好んで勞を執れ神の事業を行ふ時には金銀のことを思ふ勿れ神の神を辱かしむる勿れ神の賜を賣る勿れ以て汝の金汝と共に滅亡するを免れん而も實際の行を以て聖神の賜を賣る者あり

又巫者シモンの如く金銀を以て之を買ひ又は之を買はんと思惟する者多し嘆すべき哉。

○飲食物は美味を嗜むが爲に使用せず只己の精力を強壯にするが爲に使用し身體之を要せざる時は食ふべからず我等の中若し悔改矯正せざるに於ては時ならずに食ひ且飲み智識を有しながら無智の獸の如くに生活し己の無智の心を昏ましたる爲め定罪せられんとする者多し我は其第一なり汝等は飲食を以て樂みとし飲食すべからざる時に飲食したること屢之あり『今飽きたる者は禍なる哉爾等飢ゑんとすればなり』路加六の廿五爾等地に在りて奢り樂めり爾等の心を養ひしこと屠宰の日に備ふるが如し『雅各五の五』。

○此の汝等の日々の行爲即ち飲食の使用に最も嚴重慎重の注意を加へよ何となれば汝等の屬神的の動作公共及び家裡の動作は飲食の性質と數量とに關すること多ければなり『自ら慎め恐らくは爾等の心は發發沈湎に鈍くせられん』路加廿一の卅四且夫れ茶及び珈琲たりとも時ならざるに飲み又は過分に飲用するに於ては亦沈湎に適當す嗚呼汝等今飽きて往々神の賜を蔑視する者は禍なる哉。

○惡魔は吾人の身體に由り且概して物質に由りて吾人に動作を及ぼして吾人を害す例へば酒茶珈琲并に概して美味を以て金錢衣服等に由りて吾人の慾を燃起す故に酒茶又は珈琲を多飲すること若くは美味を食すること就中他の衛生滋養的のものと共にせずして之を食す

ることは堅く戒めざるべからず美味なるものは食事終りて後最も適宜に使用すべきものなりとす。

○視よ「サタナ」爾等を麥の如く簸はんことを求む路加廿二の卅一夫れ此くの如く聖堂に於て奉神禮の時に際し家裡の祈禱の時に際し烈しく吾人の意思を散せんとする者は誰ぞ吾人の意思を神より遠ざけ吾人の靈魂人間の靈魂在天のもの永遠のものより遠ざけんとする者は誰ぞ此世の小事若くは此世の虛此世の微此世の嬌艶即ち飲食衣服家屋等を以て吾人の心を奪はんとする者は誰ぞ吾人は互に祈りて救主がペトルの爲に祈りたる如く吾人の信の盡きざらんことを慮らざるべからず。

○飽食すれば肉體的の人神を有せざる者若くは無靈魂の肉體と爲り齋すれば己に聖神を招きて屬神的人と爲る試に水に浸されざる布片を取りて見よ甚軽くして空中に翩翻たるも一たび之を水に浸さば重くなりて忽ち地に落ちん靈魂も亦猶是の如し齋を以て靈魂を守ること何ぞ夫れ爾く必要なるや。

○中心より出でざる表面の祈禱は利益を呈するや否此の如き祈禱は神の旨に戻るなり修學のことに就ても亦然りと思ふべし中心より出でざる字義上の修學は利益を呈するものに非ず中心より祈禱せざる者が徒らに文句を數へるのみにして往々其眞意を了解感得せず之を以て己の心を照さず暖めず蘇せざるが如く不本意に修學する學生も

亦然り須らく之をして甘心隨意に學ぶことに慣れしめ能く其口に言ふ所のことを思考せんことを教へざるべからず。

○汝は信仰に依りて如何なる名稱を冠するかハリスティアン」と稱す。是れ何の意ぞ是れ我はハリストス教會と稱せらるゝハリストスの大なる躰の肢なり我はハリストスの僕及び順從者なりとの意也ハリスティアンしてふ名稱は汝をして如何なる義務を負はしむるか他なし我に負はしむるに常に己の意思と心とにハリストスを有し常にハリストスの神を己の萬般の生活上に有して彼の言行に則り彼の神聖なる命令を履行し上即ち「ハリストスが神の右に坐する所に在る事を以て念と爲し」哥羅西三の一二地に在ることを蔑視すべき義務を以てす。

○聖とは何の謂ぞ。諸罪を蟬脱して諸徳に盈るの謂なり。此の罪の蟬脱と徳行とを遂げ得るものは熱切なる僅少の人々のみにして而も之を遂ぐるや俄に遂ぐるに非ずして漸次に多年數多の憂悲疾病勞苦と齋戒警醒祈禱を以てするものにして且己の力を以てせずハリストスの恩寵にて遂げ得るなり。獨り女宰生神女は幼時母の胎内よりして已に聖とせられ次で主は彼の不斷の祈禱神言の誦讀之が熟慮在天の清淨なる無形體の諸靈の訓誨就中己の内部の光照に由りて全く之を聖にしたり。聖は之を萬象に譬ふれば日光及び雪の皎々たるに比すべく罪は光なき暗黒及び泥若くは銹に比すべし。

○汝は無始無終の嬰兒を抱ける神の母の聖像を仰ぎ見て神性と人性の誠實に相合したるに驚嘆し神の仁慈と全能を賞讃し己の人間たる品格を悟得して汝がハリストスに於て召されたる高尙の職即ち神の子及び永遠の幸福の嗣たる職に適ふが如くに生活すべし。

○主が此世に於て人間に壽命を得せしむるは何故ぞ他なし人をして悔改して罪と愆より己を清め其感情を善と惡とに對し教訓するを以て真理と愛とをして全く心に貫徹せしめんが爲なり。

○人間の靈魂とは如何なるものぞ是れ神が會てアダムに嘘込みたる所の靈魂若くは神の呼吸其者と同一にしてアダムより今日に至るまで全人類に傳はる所のものなり故に人間は恰も一人若くは人類の一

大樹木の如し是を以て左の誠は吾人の天性の唯一に基きたる天然の

の誠と謂ふべし曰く爾心を盡し靈を盡し意を盡し力を盡して主爾の神爾の原像爾の父を愛せよ又爾の隣蓋し我と等しく我と血脈を同うする人間より誰か近きものあらんやを愛すること己の如くせよ馬可十二の三十卅一又馬太廿二の卅七卅九及路加十の廿七參看此二大誠を履行するは天然の必要に出づるなり。

○凡そ汝に來るの人は假令乞食たりとも一就中心靈上の目的を以て來訪するに於ては一柔和快活の態度を以て之に接し何人に對しても己を其人より卑賤の者と見做して心竅かに謙遜せよ何となれば汝はハリストスに由りて衆人の僕とせられ人は假令汝と等しく罪の傷を負ふにせよ皆彼の肢なればなり。

○福音と聖堂の誦經の眞理には疑を挟む勿れ凡そ福音及び聖堂に於て讀む所のものは眞理の神の呼吸なり『爐に於て土より淨められて七次鍊られたる銀なり』聖詠十一の七生命安和及び屬神的の快樂なり疑を挟む者は禍なり詐偽の神は其心を昏まし壓迫して憂鬱悲嘆に陥らしむ是れ實驗なり。

○主は深く子を愛する父として吾人が彼の子たる人々の爲に誠心祈る時は之を喜び又夫の兩親が己の善良なる子の哀願に由りて不善我儘不品行なる子を憐むが如く在天の父も亦己に屬する者『提摩太二の十九の祈禱に由り又は恩寵を蒙りたる己の司祭の人民の爲にする祈禱に由りて不當の者をも憐むこと猶曠野に於てモイセイの祈禱に由

り不順にして怨言絶えざるウエレイ民を憐みたるが如くならん。ア、此祈禱や其熱心なること果して如何なりしぞ。

○主宰主イエススハリストス及び女宰生神女の至聖なる名を讚榮し奉る。予は聖機密を領したる後又は通例家裡に於ける熱心なる祈禱の後又は罪情慾憂悲鬱屈の場合に主が女宰の祈禱に由り或は女宰自ら主の仁慈に由りて不淨憂鬱凋落怯懦暗黒愚鈍奸惡なる心地に代へて我に清淨善良莊嚴光明伶俐慈愛の新氣象を賜ひたるを我が心に感觸したること幾千回なるを知らず我は不可思議に一大豹變したること幾回なるを知らず我自ら驚き亦屢他人をも驚したることあり主よ爾の能力に光榮を歸す主よ爾の仁慈に光榮を歸す主よ我罪人に顯はし

給へる爾の鴻慈に光榮を歸す。

○吾人の生命は愛なり然り愛なり凡そ愛ある所には神亦在ますものにして神の在ます所には萬善悉く備はる爾等先づ神の國と其義とを求めよ然らば此等のもの皆爾等に加はらん馬太六の三十三夫れ然り故に汝須らく欣然として衆人を養ひ慰め欣然として衆人を悦ばせ萬事に於て在天の父鴻慈の父慰藉の神を恃め凡そ汝の貴しとする所のものは皆之を以て隣に對する愛の犠牲に供せよ己のイサク己の情慾に溺るゝの心を犠牲として神に献げ己の自由の意思を以て之を屠り肉體を情慾と共に十字架に釘せよ萬事神より受けられたれば亦萬事を神に献ぐるの決心を懷き小事に於て己の主に忠を盡し以て後大事を

司る者と爲るべし爾は寡き者に於て忠なり我爾に多くの者を督らしめん』馬太廿五の廿三汝は幾回も實驗したる如く諸慾を以て空想と見做せ、アミン』

○ア、ハリスティアニンは生活上に於て如何に伶俐ならざるべからざるよ、ハリスティアニンたる者は多目を有する、ヘルウィムに則り全然目と爲り思考せざる信仰を要する場合の外全然智と爲り不斷の考慮と爲らざるべからず。

○「ハリスティアニン」は汝常に意思と心中に主禱の「天に在ます我等の父よ」てふ至大の言を記憶服膺せよ即ち我等の父は何者なるか神は我等の父我等の愛なり我等は何者ぞ我等は彼神の子にして互に兄弟なり

此の如き父の子たる者は互に如何なる愛を懷きて生活せざるべからざるか』若しアウラアムの子たらばアウラアムの事を行ふならん』約翰八の卅九吾人は果して如何なる事を行ふべきか宜しく之を記憶すべし。『願はくは爾の名は聖とせられ爾の國は來り爾の旨行はれん我が日用の糧我等の糧即ち衆人一般の糧にして己の糧に非ず自愛心は神の子の心中より一掃せられざるべからず吾人は一體なりを今日我等に與へ給へ』我等の債を免し給へ』汝神に汝の罪を赦されんことを欲し之を好まば汝に對し罪を犯す人々に對し愛が恒忍矜恤するを知りて其罪を赦すことを通例の事と見做すべし』我等を誘に導く勿れ』且自らも誘に陥る勿れ彼は爾の足に躓くを許さらん爾を守る者は眠らざ

らん主は爾の右の手の庇蔭なり聖詠百廿の三五猶我等を凶惡より救ひ給へ自ら好んで凶惡に與する勿れ然らば主は汝を彼の手に交付せざらん蓋し國惟一の王神のみを認め獨り彼に事へよと權能彼の全能の勢力を恃みとせよと光榮全力を盡し畢生彼の光榮の爲に熱中せよは爾に世々に歸す彼は永遠の王にして「サタナ」の國は掠奪詐僞の國として忽ち過ぎ去るなり「アミン」此等の事皆誠に然り汝須らく最も能く此の祈禱を記憶し屢之を誦して其の一言一句及び願事の意義如何を考一考せよ。

○兄弟及び姉妹よ汝等は水と聖神にて再び兩親より生れたる後生れたり其時汝等神の子と爲れり汝等果して斯かる高尚の職に相當する

が如き生活を爲すや否や請ふ我に告げよ汝等果して神の子たる者の生活するが如くにして生活するか汝等の品行より汝等の居處が天に在る(腓立比三の廿)を徴するに足るものありや汝等は主が其聖言に於て吾人に約したる如く其の再び天より臨まんとするを待つを徴するに足るものあるか汝等果して此世のものを蔑視して全心を盡して天に向はんと努むるか汝等果して姦淫罪惡の世を愛せざるか「人世を愛すれば父に於ける愛其衷に在らず此世の愛は神に對する仇たり凡そ世に在るものは即ち肉體の慾目の慾及び度生の驕なり」約翰第一書二の十五十六又雅各四の四參看斯世は曾て神の子を十字架に釘し今日猶之を釘して止まず兄弟及び姉妹よ汝等須らく福音に循て生活する

や否やを猛省せよ汝等其教に背かざるか最も屢マトフエイ福音の最初の數章を熟讀玩味せよ。

○女幸よ汝の同族なる我等を救へ汝と同血統なる我等を救へ生命の母及び我等衆人の母よ—假令吾人は汝を己の母と稱ふるに堪へざるにもせよ—我等を救へ汝の祈禱を以て我等を清め我等を聖にし我等を堅め我等を救へ。

○財産は我に取りて何の爲ぞ他なし之を以て我及び我が家族と我が親戚の生活を保たん爲め貧者に施さんが爲にして徒らに之を貯蓄せんが爲に非ず汝は須らく豊かに量り施すの意神をして汝の施濟に依り豊かに量らしむべし且夫れ凡そ財産若くは生活の資たるものは神

のものにして我等のものに非ず而して神は生命の源にして彼は吾人自身を以て若くは他人を以て若くは直接に吾人の生命を維持せんことを慮るなり『我等己の身及び互に悉くの我等の生命を以てハリストス神に委托せん』『聯禱』吾人は我等生活せざるべからずと云ふ而も吾人の生命は乃ち神なりされば生活の資も亦神の之を賜ふこと明かにして且必ず賜はんとす。

○其數の非常に増加したる此世の雜誌新聞紙には多くは此世の精神の氣焰熾んにして往々神に背戾する文句あり而もハリストスアニンは(希望に於て)常に此世の國民たるのみならず亦天の國民たる者なるを以て天のことをも念はざるべからず古時の異教の文筆は其原理及び

動機に由りてハリストス教國民の或文筆よりも善良潔白(シセロ)の如き高尙なりしが如し特に有智の者即ち肖神の者たるべきハリストス教國民は口頭の言と印刷の文を以て絶えず手痛く父の個位的言たる我等の主イエススハリストスを侮辱し其文を徒らに廣く傳播し世俗の文筆を以てハリステアニンを誘惑し神の言及び諸聖父の書を読むの念を失はしむ雜誌新聞紙の編輯人發行人は多く謾言媚辭を飾りてハリストスの有智の群を捕捉誘惑すア、神の言よ吾人は爾の畏るべき審判に於て如何なる應答を爲すべきか。

○今や何處の家庭に於てか神に對する篤き信仰を起さしめ誘惑疾病憂悲災難に於て神に堅き望を屬せしめ神に對する熱愛を起さしむる

神諭の聖詠經を読む所あるか吾人の祖先即ち管に平民のみならず貴紳諸侯の好んで誦讀したる神諭の聖詠は何處に於て之を読むか之を讀む所なし之が爲ハリステアニンの信仰希望と神及び隣に對する愛を有する者少く不信失望嫉妬あるのみ熱心の祈禱なく高潔の品行なく罪を悔ゆるの精神なく傷感の情なく聖神に由るの義と平和と喜悦あるなしハリステアニンの多くは此世の精神新聞雜誌并に概して世俗の操觚者の精神に貫徹せらる而して夫の操觚者なる者はハリストス教的に非ざる異教的の精神聖書の天啓に出づるの理を排斥し傲慢自負博識揚々自から得たりとするの精神此世の空虚の精神に貫盈するなり。

○凡そ教會が吾人の口と耳とに入る、所のものは皆是れ眞理なり聖神の呼吸若くは教訓なり汝須らく教會の各意思と各言に對して敬々肅々たれ。汝須らく意思と言語の範圍は猶夫の無形及び有形世界の如く神の領分たることを記憶せよ。汝は己のものは何物も之を有せず意思言語すら猶汝のものに非ず。皆悉く我等の神父なり皆神なり。金が一定の形狀に溶合する如く又は天然の萬物が一定の整々たる秩序を保つ如く汝も亦融和して齊全たれ。自愛的箇々單獨の生命を以て生活する勿れ。

○海河の氷解は吾人の靈魂の肉體より解脫する預象なり。水は氷解して空氣と接觸して之に搖撼され又太陽に觸れて太陽の水中に映する

如く潔白なる靈魂は肉體を解脫してハリストスと接觸し之に爽にせられ之に照さる。水は氷に覆はる、間は恰も獄中に在る如く桎梏に繋がる、如くにして空氣及び日光と直接接觸せざる如く吾人の靈魂も肉體の膜に於て生活する間は神及び諸聖人と直接交通することなく只己の膜を経て一部分の交通を有するに過ぎずと雖も肉體の膜脱落する時は面のあたり我等の主を睹ること猶水が氷解後に於て直接太陽に面し空氣と直接接觸するが如くならん。

○吾人の心は單純單獨なり故に二人の主神と「ママモン」即ち財とに事ふる能はず。馬太六の廿四されば吾人が誠心主に事へ併せて斯世の事物に戀々たるべからざるや明なり何となれば斯世の事物たる皆「ママ

モンに屬すればなり。且夫れ人間の財に事ふるは其品格に相當せず財は土及び塵なればなり。吾人若し斯世の事物に心を傾くる時はその事物は吾人の心を頑固にし俗化して神と神の母諸聖人及び凡そ屬神的事物の在天のもの永遠のものより吾人を遠ざけ此世のもの朽るもの浮雲的のものに吾人の心を繋ぎ隣に對する愛よりも吾人を避けしむ。予は猶茲に言ふ所を完結せんが爲斯世の事物に戀々たるの精神斯世の事物を愛惜するの精神は乃ち惡魔の精神にして惡魔は自ら人の此世に戀々たるに乗じて其裡に棲み人苟も此世に戀々たるの情起るに當りて直に之を排除せざれば彼れ忽ち其瞬間に乘じ恰も横暴なる勝利者の如く屢々吾人の心中に侵入して吾人の精神を暗まし之を彈壓

殺害し之をして如何なる神の事業をも行ふの力なきものとし之に驕傲誹謗憤懣聖物及び隣を蔑視するの念抵抗憂鬱失望憎惡等を感染すと言はざるべからず。

○主の藉身し苦を受け十字架に釘せられ死して復活せしは吾人の爲なり彼は又吾人の爲に諸徳を以て己の母なる至潔至淨の處女マリヤを飾り之に諸の神力を賦し以て彼れ至仁完全無玷の者をして己に次ぎて吾人の爲に一切たらしめんとせり。されば吾人は我等の女宰に滿被する神の恩寵をして吾人の爲に徒爲に歸せしむる勿れ吾人皆宜く勇敢と希望とを以て夫の處女の万事を幫助する奇異至淨の保護を仰がん。罪吾人を惱さんか吾人は彼に祈り彼に其祈禱の「イソップ」を以て吾

人を身靈の諸般の汚穢より清めんことを求めん。

○屬神的の言に對する誹謗及び暴慢は何より出るか吾人の心の驕傲吾人の智識の自負飽充より出づ。

○神が如何に微々たる不淨たりとも瞬間も汝の裡にあるを容赦せず苟も汝の心中に不淨の思想の起るを默認することあらば平和忽ち去り神亦自ら汝を棄て、汝直に罪を一掃せざるに於ては汝化して惡魔の容器たらんとすることは汝の常に認むる所なり、されば凡そ有罪の思想は勿論就中有罪の言行は直に之を排して是れ惡魔なりと曰ひ而して神聖善良なる思想并に言行は之を指して是れ神なり若くは神より出でたりと云はざるべからず夫の神言を其腹内に宿し神言が其の

神性と至淨至潔の身靈を以て宿りたる神の母の至聖の靈魂と至淨の肉身が如何に全能者の絶美清潔動かすべからざる宮殿たりしやは汝須らく今日之を細思せよ汝須らく彼が如何に永遠無限不變不易の神聖なるやを想像せよ又彼が如何に恭敬稱讚を受くべきものなるやを思考せよ惡魔の風に動かさるゝ韋馬太十一の七たる吾人が果して何者なるやを想像せよ惡魔一たび吾人の心中に誹謗を嘘き込めば吾人忽ち彼の誹謗に動かされ煩悶憂鬱として彼の誹謗は悉く之を蔑視し若くは空想として之に意を介すべからざるを知らざるなり。

○神に於て父と子と聖神の分つべからざるが如く吾人の祈禱と生活上に於ても意思と言と行は必ず相分つべからざるものたり汝神に求

むる所あらんか其事必ず汝の願に應じて神の旨に適ふが如く成らんとすと信せよ汝神の言を誦せんか凡そ其書に言ふ所のものは昔在り今在り將來亦在らんとすること若くば昔斯く行はれ今又行はれ將來亦此の如く行はるべきを信せよ汝須く斯く信じ斯く言ひ斯く讀み斯く祈れよ言は實に大なるものなり思想發音動作するの靈魂全能なる造物主の像且肖なるものは至大のものなり人よ汝須らく己の何者たるを知り己の品格に應じて行動せよ。

○仁慈なる女宰よ汝は神の慈憐深き母として吾人の祈禱に依り吾人を汚穢奸惡誹謗の思想諸罪と諸慾惡魔の諸の奸計より救脱するを以て我及び敬虔にして品行方正なる汝の民に常に汝の權威を現はし給へ。

○女宰生神女聖天使及び諸聖人に對しては恰も聖神其者に對する如く就中彼等を聖にして彼等に居るの聖三者に對する如くにして祈禱せよ。願くは彼等も我等に在りて一と爲らん。約翰十七の廿一我等の神は聖にして聖人に居る(高唱)「アミン」。

○吾人は皆恰も恍惚として心と智との昏昧に在るもの、如くなるも主イエススハリストスは吾人の照明なり聖人は神に居り神亦彼等に居り主と一神たる(哥林多前六の十七)が故に常に神の恩寵に由りて我等を見る蓋し主は一として見ざるものなく聞かざるものなければなり故に例へば聖堂に於て神の聖人の聖像を見る時の如き彼等が汝を

見就中汝の心中を洞見すと信せよ。
 ○敵は如何なる情慾を以て汝と闘ふも愛ふることなく憤ることなく
 温良謙遜にして之を忍び性急憎惡憤怨誹謗の念をして心中に發動せ
 しむる勿れ。

○天下の造物一として造物主の無限の仁慈と公義とを表證せざるな
 く「サタナ」自ら及び其使は其醜汚の存在と人々に對する憎惡極まる奸
 計を以て造物主の無量の仁慈と公義を證明す夫れ「サタナ」及び其使は
 最初何者なりしぞ彼等が己の忘恩の任意的決心に依り驕傲憎惡と主
 に對する嫉妬に依りて失ひたる所の光と幸福の實は果して如何なる
 ものなりしぞ彼等の罪に陥りしは全く故意に出で豫め謀る所あり造

物主と其造物たる有智にして言語を解するの人間に對し永遠に闘ふ
 の目的を以てせしに非ずや此世に於ける「サタナ」の惡逆の行動と其惡
 事の多きと勢力とに由りて判断したらんには前の天使たる「サタナ」が
 如何に偉大強盛の神たりしやは推測するに難からず全世界に散居す
 る人々に對する彼の迷蒙眩惑の多きに由りて「全世界を惑はす者」黙示
 録十二の九判断したらんには彼が最初如何に明煌々として眞理に充
 満せしやを推測するを得べし「神の園に在り諸の寶石にて飾られたり
 き」以西結廿八の十三彼が施す所の狡猾極まる肉體的不淨の慾望に由
 りて判断したらんには彼が造物主より受けたる仁慈に於て如何に慕
 ふべく如何に愛らしかりしやを斷定するを得べし彼の奸計と惡謀と

に由りて判断したらんには彼が如何に伶俐にして如何に多くの善事
 を行ひ造物主が劣等の諸神(天使若くは人間を照管することに關して
 如何に能く之に事ふることを得たるやを推測するを得べし此の一大
 悪塊たる「サタナ」に由りて初め「サタナ」が如何に偉大善良美麗光明有力
 伶俐の造物たりしやを判断すべし彼が己に包含せる造物主の仁慈の
 賜如何に多くして己の奸惡故意の無智に由りて失ひし所のもの果
 して如何なるものぞ彼の人間に對する憎惡に由りて彼が初め如何に
 善良なりしかを推測すべく彼の嫉妬に由りて初め彼の好意なりしを
 判断すべく彼が人々をして無限の貪婪吝嗇を起さしむるに由りて彼
 の鴻仁なりしを推想すべく彼の驕傲に由りて彼の神より受けたる威

嚴を想像すべく彼が人々をして憂鬱無聊と時として忍ぶべからざる
 煩悶の情を起さしむるに由りて彼の初め幸福なりしを推定すべし蓋
 し彼は今奸惡なるだけ夫れだけ初め善良なりしなり彼は在天の諸天
 使并に深思熟慮する人々に謙遜順從を教ふる千古の好摸範たり何と
 なれば天使は如何に完全なるも若くは人間は如何に伶俐なるも要す
 るに何事に於てか如何に完全なりとするも皆是れ唯造物主の仁慈に
 依り保有する所のものにして自ら之を有するに非ず萬事の爲め造物
 主に感謝し確然彼の仁慈と全能を信するの信と彼より萬事を受けん
 とするの望とを以て萬事の爲め彼に祈らざるべからず惡鬼は驕傲と
 忿恨に由りて罪に陥りたり是れ人をして造物主に對して謙遜し己を

虚無と見做し萬事を以て造物主の功に歸し只管造物主の爲め且造物主の旨を行ふを以て生活せしむる好模範なり主よ爾の所爲奇異なる哉夫の天使惡魔と爲れる天使が其智慧を以てして求むること能はず且求むることを欲せざりし所のものを朽つべく且心靈的不死者の族より出でたる處女は之を求め得たり至聖處女マリヤは實に空前無比の謙遜を求め得至高の神聖を求め得たり「恩寵を蒙れる者慶べよ主は爾と偕にす主は其婢の卑しきを顧みたり」路加一の廿八、四十八是の如く吾人も亦皆自ら微々たる者にして罪の外あらゆるものを神より受くるものとして常に深く造物主に對して謙遜し萬事に於て彼の慈憐を求めざるべからず。

○汝は恩寵の佑助なくんば一の情慾にだも一の罪にだも克つ能はざるを以て常に己の救主ハリストスに佑助を垂れんとを求めよ彼の此世に來り苦を受け死して復活したる所以のもの亦萬事に於て吾人を助け吾人を罪と情慾の強壓より救ひ聖神に於て吾人に善事を行ふの力を與へ吾人を啓發し吾人を堅定し吾人をして相和せしめんとするが爲のみ汝或は曰はん一步を進むる毎に罪の横はるあり一瞬毎に罪を行ふを免れず如何にして救はるゝを得んやと之に對する答只一あるのみ即ち汝歩む毎に一瞬毎に救主を籲び救主を記憶せよ然らば汝救はれ他人をも救はんと云ふ是なり。

○汝等自愛者の如く箇々單獨に我(神)の賜を利用せず乃ち一切を共有

すべき我が子として之を利用し我は我が賜を我が仁愛と慈憐とに依り費なくして汝等に與ふるを記憶し我が手の業の結果をも他人に費を取らずして與ふることを惜む勿れ一家に於ても亦此の如し父母若くは兄弟が土産物を携へ來る時は父は己の子女に普く之を分配し又は兄弟は同胞に普く之を分配し而して若し子女又は兄弟及び姉妹が皆俱に相愛和合して生活したらんには父若くは兄弟が彼等の中の或者に土産物を携へ來りて一人になりとも其の他人に與へたるものを與へざるが如きことあらば満足を覺えず幸福を感ぜざらん是れ何故ぞ他なし彼等が相互の愛に依りて互に一身同體の感を懷き皆一人なりと思ふが故なり汝等も亦皆各是の如く行ふべし而して斯く我が悦

ぶ所の愛の爲に汝等に如何なる報を爲すべきかは我能く之を知る若し夫れ我は我が誠を行はざる者をすら恤むとせんには或富める人に田畝の善く實れるあり一路加十二の十六我が眞實の子即ち我が専ら我が矜恤を與へんと預定したる所の者我豈之を恤まざらんや然り我は之を恤まん『我が恤む所の者は之を恤まん』羅馬九の十五又出埃及記三十三の十九參看。

○若し罪に陥らば起てよ救はれん『汝罪人にして常に罪に陥らば起たんことを學び此才智を得んことを慮れよ此才智は他に非ず汝須らく聖神の會て王及び預言者たるダウイドに諭したる』神よ爾の大なる憐に因りて我を憐み給へ』云々の聖詠を諳記し眞實の信仰と希望と痛嘆謙

遜の心を以て反覆之を誦せよ王ダウイドの言にて表明せらるゝ汝の誠實の痛悔の後忽ち赦罪の光主より汝に輝き汝は己の精神的能力の安和を感せん人間の生活上最も重んずべきは各相愛の爲に熱中し人を議せざることは是なり各人己の爲に神に應答す只汝は己を顧みよ憎悪は慎んで之を避くべし。

○正教の「ハリステアニン」は恰も是れ一家族の如くイエススハリストの諸子なり而して善良の家庭に於ては母は常に深く尊敬せられ神の母兄も亦弟の尊敬する所と爲りて弟は其兄に倣はんとす「ルーテル」派及び「エビスコバル」派の謂よ何故に汝等に之れなきか汝等の中に神の母の相當に敬はれず嚴かに尊崇叩拜せられざるは何故ぞ聖天使及

び神の諸聖人が嚴かなる尊敬禮拜を受けざるは何故ぞ汝等は何故彼等に則らんと欲せざるや或は汝等は唯一の神を尊崇し獨り彼にのみ叩拜せんとするか然れども汝等主イエススハリストスの母聖天使聖人等は皆是れ神の純乎たる像にして神の友たること猶アウラムが神の友と稱せられしが如くなるを思はざるべからず神の生きたる像神の子及び友たる者に對し安んぞ叩拜せずして可ならんや。

○世界は一家屋なり此家屋の建築者及び主人此家に住居する人間たる「ハリステアニン」の造者及び父は神即ち是なり此家に於ける母は至聖生神女なり汝は常に己の父神の在ます前に於て之を愛し之に聽従しつゝ歩めよ又汝は我等共同の母たる至聖生神女の在ます前に於て

之に對する聖なる愛と恭敬聽從の念を懷きて歩めよ。愛悲災厄疾病等凡そ己の身靈上彼の佑助を求めんと欲する場合に際せば信と望と愛とを以て彼に求めよ。汝は須く主神汝の造者及び父の聖なる如く又女宰神の母救主に由りて我等の母たる者の聖なる如く聖と爲れ。婦よ視よ爾の子なり視よ爾の母なり。約翰十九の廿六廿七吾人をして至上なる神の頌揚せられたる母吾人の至聖至淨祝福せられたる光榮の女宰を己の母と稱ふるに疑を挿まざらしめんが爲め彼女の世の先より在ます神の子主イエスハリストスは吾人若くは吾人の中神聖の爲に熱中する者に直に彼を呼んで己の母と稱ふるを許し以て吾人の疑を解きたり曰く視よ爾の母なりと何となれば神學者聖イオアンに由り

て吾人ハリストティアニンにも之を言はれたればなり。且彼は實に慈愛篤く思慮深遠至聖にして己の子たる吾人を神聖に導く吾人の母なり。
 ○ 翻然善に遷ること至難にして神の恩寵と熱心なる祈禱及び節制を以てするに非ざれば到底改善すること能はざるは汝の明知する所なり。汝は己に多くの慾傲慢忿恨嫉妬貪婪利慾憂悶懶惰邪淫性急不順等の作用を感觸し之と共にして屢々之に制せらる而も恒忍の主宰は汝の悔悟反正するを待ちて汝を容忍し己の仁慈の諸般の恩賜を以て汝に賜ふ。汝は須く汝と偕に住する多慾の人々に對するに寛恕恒忍慈愛を以てし善を以て總ての惡に克ち就中彼の人々の爲め神に祈り神に自ら之を矯正して其心を神聖の源たる神に向はしめんことを求むべ

し汝は悪魔の其國を擴張することに力を藉す勿れ須く己の行を以て在天の父の名を聖にし彼の國を此世に擴張することに助力し—蓋し我等は神の同勞者なり(哥林多前書三の九)—彼の旨の天に於けるが如く此世にも行はれんことに熱中し己の負債者に對しては喜んで其負債を免すこと猶善良なる子が己の愛する父の旨を行ふの機會を得て欣然たるが如くすべし。

○汝が貴重必要の紛失品を發見する時はその愉快如何にぞや汝は欣喜雀躍せん在天の父が己の失踪したる子罪人なる人間の發見されたるを見己の亡びて蘇生したる羊を見己の紛失したる「ドラフマ」即ち神の活像たる此人間の發見されたるを見る時は其快如何にぞや其歡喜

の狀決して筆紙の能く竭す所に非ず在天の父が失踪したる己の蕩子の再歸するを見たる時の喜悅の至大なる愛情好意に充てるの深き天舉りて之に與かるに至る蓋し「天には一の悔い改むる罪人の爲に喜あり」路加十五の七十墮落せる兄弟及び姉妹よ汝等須く滅亡の途よりして在天の父に復歸せよ「悔改せよ天國は廻けり」馬太三の二。

○各人宜く神の呼吸たる己の靈魂の單純なることを知りて之を記憶せざるべからず神は單純にして靈魂も亦單純なり靈魂は單純なるを以て決して同時に二個の相反するものを愛する能はず即神と共に此世のもの人間と吾人の肉體に取りて快絶なる物質的のものを愛する能はず人苟も心を盡して神を愛せんとせば必ず一切此世のものを

以て塵埃と見做し決して之に惑溺すべからず又隣を愛すること己の如くせんとせば金錢を蔑視し美食を嗜まず粧飾を事とせず勳章位階を意に介せず世人の稱譽を得んことを期すべからず靈魂の單純は就中公私の新禱の際神の言及び諸聖人の書を読む時に際し并に總體緊要の事を行ふに際して之を守らざるべからず一人は二人の主に事ふる能はず『馬太六の廿四』。

○「ハリステイアニン」たる者は熱心堅實に神と神の像たる隣を愛して常に左の如く言はざるべからず曰く誰か我等を神と隣の愛より離さんや或は憂患或は困苦或は窘逐或は飢餓或は裸裎或は艱危或は刀劍なるか『羅馬八の卅五』或は金錢或は飲食の美味或は美屋或は衣服の慮

或は此世の種々の娛樂なるか然れども此等の地上の事物は我皆之を以て塵埃と見做し此世の娛樂は我皆之を以て空想に過ぎずと爲す他人の罪過は我之を以て天性の腐敗惡魔の作用若くは奸計教育の不充分若くは不良生活の狀態の不順兩親及び教育者の性質等に歸す我自ら我が罪我が愆我が憎惡の念貪婪不淨劣弱を認知しつゝ同一の弱點過失を有するの我に似たる人々を憎む能はず何となれば隣を愛すること己の如くせざるべからざる理なるに己に無數の罪あるを知るに拘らず己を愛すればなり遂に吾人は一體なるが故に相愛せざるべからざるなりと。

○汝三思せよ汝己の心を罪より清むる時は至大の賞を得ん即ち汝は

己の至仁の造者及び己の照管者たる神を見ん心を清むるの功や至難なり何となれば困苦艱難之に伴へばなりされど其賞や至大なり「心の清き者は福なり彼等神を見んとすればなり」馬太五の八。

○人々動もすれば則ち曰ふ神は仁慈なり彼我等を憐むと然り神の慈憐の多き限なし然れども神我等に對して慈憐を垂るゝこと限なく鴻慈なりとせんには我等恣に己の不法を以て彼を辱しむるは何故ぞ我等は神より憐を受くること多きに從て益々深く彼を愛し彼に感謝し彼の聖なる誠命に聽從せざる可らず而も此愛此感謝と此順從とは何處にある乎。

○奸惡傲慢なる人は他人の中に只傲慢と憎惡のみを見んとす而して

若し己の知己中殊に幸福且富裕に生活し而も己と親善ならざる人に就て世人の惡口するを聞けば他人は惡くして己は彼等に對し完全なりと思惟して心竅に快と稱し其惡口甚しければ更に一層の快を覺え他人の中には其惡をのみ認め彼等を惡魔と比較せんとす何ぞ憎惡の甚しきよ何ぞ傲慢の甚しきよ何ぞ愛の欠乏せることよ汝は爾かせす惡人に於ても何等かの善を探ね其善事に就て喜び欣々然として彼の善良の性質に就て語れ例令徹々たりとも一善事を有せざるの人あるなし彼に有る所の惡は愛を以て之を覆ひ彼の爲めに神に祈り神に「其慈憐を以て惡人を化して善人たらしめんこと」聖大ワシリイ聖體禮儀の言を求めよ汝自ら惡の深淵となる勿れ。

○「ハリストイアニン」よ汝の信仰の首たるハリストスは十字架に釘せられ汝に十字架を貽せり汝が奢侈快樂安逸遊惰に耽るは何故ぞ彼は侮辱を忍び汝に彼の名の爲に侮辱を避く可らざるを誡めたるに汝は名譽を求む汝須く屢々夫の十字架に釘せられし者を仰ぎ視て己の義務を學べ凡そハリストスに屬する者は肉體を其情及び慾と共に十字架に釘せり「加拉太五の廿四」。

○「爾等の首の髮の一も喪びざらん」路加廿一の十八即ち汝等が頭腦の聖なる思想も管に神の爲めのみならず人々の爲めにも滅びざらんとの意なり蓋し吾人は神の聖人の神聖なる思想感情が憲章に記されて今日に至るまで完全に保存せらるゝを見る。

○凡そ見ゆると見えざるもの、原因は誰に存するや神に存す而も神は見るべからず汝宜く見えざる神の前に度み見えざる神に向へよ神は永遠至聖至善全知公義全能在らざる所なく不變不易満足至福の神なり而して汝は神の像なり汝須く假の住家たる肉體を輕んじて屬神的たれ聖たれ仁慈たれ博識たれ公義たれ勇壯たれ剛毅たれ善に於て渝はらざれ凡てに就て満足なれ。

○己の爲めに家屋を建造せし者が其中に住居する権利あるは當然なり吾人は我等の造成者の家屋なり彼造成者は己の爲めに我等を造れり蓋し彼は凡てのものを己の爲めに造りたればなり「我等の中に當に住む可きは彼造成者にして殺人者たり盜賊たり掠奪者たり詐僞者た

る惡魔に非ず。主よ。來りて我等の中に住め。『聖神に對する祈禱』我等彼に來りて彼に住居を爲さん。『約翰十四の廿三』爾等豈知らずや。爾等は神の殿にして神の神爾等の中に居ることを。『哥林前三の十六』。

○汝須く神の言及び諸聖師父の書の一言一句に對して敬々肅々たれ我等が聖堂に於て聽問し或は家に於て誦する諸種の祈禱及び唱歌に對しても然かせよ。何となれば是れ皆聖神の呼吸及び言にして之を直言せば夫の我等の爲めに自ら言ふ可らざる歎息を以て求むる聖神其者なればなり。羅馬八の廿六。

○日々聖堂に於て誦せらるゝ大聯禱は睿智なる聯禱なり。愛の聯禱なり。生存する「ハリステイアニン」及び諸聖人は之に於て「イエススハリスト

ス」の體の一大支肢として形容せらる。此の聯禱は至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光榮の女宰生神女永貞童女マリヤと諸聖人とを記憶して我等己の身及び互に各の身を以て并に悉くの我等の生命を以てハリストス神に委託せん」と云へる最後の誦句を以て終結するは實に美なりと謂ふべし。重聯禱及び祈願聯禱も亦同じく美なり。我等の耳は此等に慣れたりされど我等は自ら初めて之を聞く者と想像し己を外國人の位置に立てん。

○我等神に祈りつゝ常に彼の無限の尊大彼に對する無數の天使及び聖人の叩拜を想像し又た彼の在らざる所なきこと全知なること彼の無限の仁愛公義至聖を想像するを要す。祈禱に於て至聖なる生神童貞

女を至聖なる者至淨なる者至て玷なき者至福なる者と名づくる時に
 は彼の實體其物が永遠不動不易想像すべからざる『天使の目にも見る
 可からざる』アカフイストの言聖なりと思へ凡ての天使及び聖人も亦皆
 然りとすべし即ち彼等の本體がイエススハリストスの恩寵に依りて
 聖且仁なりと思へよ祈禱に於て主或は至淨なる主の母たる生神女或
 は諸天使或は聖人等と談話することを以て常に至大の幸福と思ひ汝不
 潔取るに足らざる蟲が果して何者と語りつゝあるかを記憶し欣然と
 して且敬虔の畏を懷きて常に彼等に祈れ。

○『蓋し國と權能と光榮は爾に歸す』乃ち我等に歸せず我等は自ら諸愆
 を率ゐて王たらんと欲するの意あり即ち萬事己の爲めにせんとし爾

の力を恃まずして己の力を頼み爾の光榮を求めずして己の光榮を求
 めんとす然れども我等の此望は皆是れ惡魔の希望なり我等は須く萬
 事を爾の旨に従はしめ萬事に於て爾の力を恃み萬事爾の光榮の爲め
 に行はざる可からず』皆神の光榮の爲めに行へ』(哥林前十の三十一)。

○イエススハリストスは生ける者とし施生者として恰も十字架の徴
 に於けるが如く十字架と偕にして常に我等と共に在し我等の神救世
 主たる彼に對する信仰に由り常に我等の救の爲めに種々の力を以て
 作用しつゝあるなり是を以て光榮は常に我等と偕に在ますの主に歸
 す』視よ我恒に爾等と偕にして世の終末まで在るなり』アミン』(馬太廿八
 の二十)。

○神聖の機密に與かる者よ汝等果して適當に聖體機密を領するに於ては汝等如何に親密に主と體合するかを恐れ汝等は主及び生神女に對して如何に勇敢なるよ汝等如何に純潔に如何に従順謙遜温厚に如何に地上の事物に戀々たるの情を放擲して天上の純潔永遠の幸福に對して如何に燃ゆるが如き希望を有せざるべからざるよ。

○汝は十字架の徴を書きつゝ汝の諸罪が十字架の上に釘つけられしことを信じ且常に之を記憶せよ若し罪に陥ることあらば直に己を誠實に罪し主我等の罪を十字架に釘つけし者よ我が此の罪をも汝の十字架に釘つけ爾の大なる憐に因りて我を憐み給へ(聖詠五十の三)と祈りつゝ己に十字架の徴を書きよ汝の罪乃ち淨まらん「アミン」

○有らゆる罪と慾とは常に靈魂に侵入せんとし時々刻々其攻撃を勉めつゝありされど汝は之を煩惱の迷悪魔の妄想と見做し毅然として不屈不撓斃れて後己の精神を以て彼等と戦へ。

○汝は神に祈りつゝ常に思想及び心のみならず口と舌とを以て彼に接するを感じる程主は汝に近しと信せよ「言即ち神」は爾に近し爾の口にあり爾の心にあり(羅馬十の八)。

○我等人間は皆一(兄弟)にして至善全能盡さざる泉なる神は彼等衆人の爲めに一切なりてふ所信を以て常に汝の心に銘せよ然れど人類の敵たる悪魔も亦萬事に於て働くを得可く且現に働きつゝあるを以て彼が人々の中に醸す所の惡に克つに善良忍耐謙遜寛容を以てせざる

べからず。

○人間—此の神の像—を以て人間の中にある悪と混ざる勿れ何となれば悪は只偶然的の不幸疾病悪魔に属する妄想にして人間の本質たる神の像は依然として人間の中に存すればなり。

○若し神の前に罪を犯すことあらば我等は日々至て多く罪を犯しつ
つあり直ちに汝の心の號叫を顧み給ふ主に對して信仰と己の罪を悔
ゆる謙遜の心と感情とを以て己の心の裡に神よ爾の大なる憐れに因り
て我を憐み給へとの聖詠を唱へ次で聖詠全篇を熱心に通讀せよ而し
て若し一回の通讀にして何等の感動を起さざれば更に復讀せよ且之
を通讀するに一層の熱心と感情とを以てせよ然らば直ちに救と平和

(〇三一)

は主より汝の靈魂に輝かん汝須く常に斯の如くにして痛悔せよ是れ
罪に對する確實經驗的方法なり而して汝若し猶安意を得ずんば自
ら己を罪せよ是れ汝が痛悔の念なく心の謙遜なく神より罪の赦を受
けんと欲する確乎たる希望なくして祈りし所以にして罪の汝を傷つ
くること弱きを示すなり。

○我罪に陥らんか主は我を清む罪を犯し或は敵より耻辱を受けて憂
愁煩悶せんか主は我が憂愁を消滅し我が勇を鼓舞す主は我が爲に一
切なり。ア、主宰常に有る者よ光榮は實に爾に歸す。

○聖神は空氣の如く萬物の中に充滿し萬物を貫徹し在らざる所なき
者満たざる所なき者なり凡そ熱心に祈る者は聖神を招致し聖神を以

(一一一)

て祈るなり。

(二二一)

○「二人或は三人の我が名に因りて集る所には我も其中に在るなり」馬太十八の廿何故神は特に二人或は三人の中に俱に在ますことを約束せらるゝや是れ二人或は三人がハリストスの名に依りて集る所即ち信と愛との一致たる教會には相愛存するが故なり「爾等若し相愛せば人皆此に由りて爾等の我が門徒たるを知らん」約翰十三の卅五。

○眞實の神即ち凡そ思想せらるゝ所のものは眞實なり凡そ眞實なる思想は皆是れ聖神の呼吸なり眞理は思想及び呼吸の如く單純輕微にして人間の爲め便利且施生的たり。

○汝が空気を呼吸し之を以て生活し或は食ひ及び飲むことの容易な

るが如く汝が信仰に依りて主より凡ての靈的恩賜を受くることの更に容易なるを信じ且望め祈禱は心の呼吸なり祈禱は靈的食物及び飲料なり。

(三二一)
○主は汝衆人の牧者に無形の狼の如何に猛きかを知らしめたる所以は一には汝をして亦自ら全力を盡して彼の爪牙より逃れしめ且神の汝に託せる羊群を救はしめんが爲めなり今後汝は主の教訓に則り特殊の熱心を以て彼等に教訓し夫の無形の狼が片時も止む時なく如何に彼等を捕へんとしつゝあるか何に依りて之を捕へんとするか我等をして一層容易く且好んで罪に陥らしめんが爲め彼が如何に我等の肉情に媚びつゝあるか如何に多くの者が彼の媚を解せざるか人々が

如何に好んで彼に事ふるか例へば口腹の慾饕餮而好色姦淫貪婪傲慢虚榮憎惡嫉妬褻瀆懶惰猥褻の言空語嘲笑粧舞踏演劇骨牌等に耽るの慾に於て彼狼に事へつゝあるかを彼等に示せ。

○吾人は身體に纏ふ衣服を華美清潔にすることを慮り吾人は各嗜好に依りて美々しく之を裝飾せんことに焦慮するも全然諸罪に汚され而も之を着服して皆神の審判の前に立つ可き朽ちざる衣服に就て慮る者之れあるか悔改の涙を以て慈善の行爲を以て之を洗ひ去り齋戒祈禱儆醒と神を思念することを以て之を飾る者果して之れあるか。

○爾我等を撲ちし日我等生涯喜び樂まん』聖詠八十九の十四、十五仁慈なる神は我等を罰し而して後此世及び永遠の矜恤を以て我等を恵む

久しく病床に呻吟する者の如き恰も奸惡なる暴君より苦を受くるが如く病に苦むと雖も之が爲め心は病中に於て恰も黄金の如く清まりて其人は神の子たるの自由を得永遠の安慰と幸福とを受けん。

○試鍊を経ずんば通常の鐵も鋼鐵と見え黄銅及び鐵葉も銀と見え混成銀も純銀と見え赤銅も金と見え金と土との混成物も純金と見え通常の硝子も金剛石と見ゆることあれども試鍊に依りて此等のもの、眞價値現はる人間に於ても亦然り。一見溫柔謙遜仁慈善良質朴貞操篤信の如く見ゆる者多しと雖も試鍊に依りて彼等の奸惡傲慢殘忍落亂吝嗇貪婪嫉妬執念深く怠惰の者たるを表白すること往々之あり。試鍊は窮乏落魄憂愁疾病侮辱等に依りて來る而して能く此試鍊に堪ふる

者は神の國に入るを得べく堪へざる者は其望なし蓋し彼の中には惡の分子の混合物猶多く存すればなり。

○汝等一體の肢として神の諸子として互に相愛一致和合肅然として互に相敬し主の我等を寛容せし如く互に相寛容して生活せよ傲る勿れ嫉む勿れ仇敵視する勿れ肉慾を制せよ貞潔を守れよ過分のものは凡て之を節せよ祈禱を怠る勿れ凡そ業務を始むるには常に簡單なる祈禱を以てせよ日を始め又之を終るにも神及び在天の生神女と守護神使に對する熱心の祈禱を以てせよ衆人の爲めに祈禱すること己の爲めに祈るが如くし衆人に幸福を望むこと猶己の爲に望むが如くせよ何人にも惡を望む勿れ又之を行ふ勿れ。

○人々が汝の眼前に於て汝に對し主に對し隣に對し或は自ら自分に對して種々の罪を犯す時には彼等に對して激怒する勿れ—蓋し汝なくも奸惡は世界に充滿せり—乃ち誠心彼等を憐み彼等若し汝を侮辱したらんには自ら心に主よ彼等を赦せ蓋し彼等は罪に惑亂せられて其爲す所を知らず(路加廿三の卅四)と云ひ以て彼等の罪を赦せ。

○苟も心が凡そ此世のもの物質的のものに執着する時は我が靈魂に取りて恐慌なり憂愁なり壓迫なり死なり而して我が體そのものは自ら腐敗なり塵なり煙なり我が靈の爲めに必要缺く可からざるものは獨り公義神聖眞實相愛慈憐溫柔無邪氣平和靈的自由若くは心に於ける神の恩寵是のみ此等の寶は我が全靈全身の爲めに施生的にして又

永遠なるものなり我等は全力を竭して此等のものを得ることを努め
而して己に得れば之を己の中に保存し増殖し堅固にすることを勉め
ん蓋し凡そ善なるものは我等の罪に依りて恰も忽ちに蒸發せんとす
るが如くなればなり。

○主よ常に溫柔なる心と明白正直温和なる眼を我に與へ給へ必ず成
らん。主よ爾の右の手にて我の裡に行ひ給ひし變化に光榮を歸す爾が
我より我が慾の燃ゆる荆棘我が壓迫我が耻辱及び我が荏弱を去り我
に賜ふに平和寧靜自由勢力及び勇敢を以てしたるに依り我爾に感謝
す。請ふ爾が我に施し給ひし所のものを堅めよ。光榮は信仰の力及び祈
禱の力に歸す蓋し凡そ祈禱の時信を以て求むる所は爾の言馬可十一

の廿四に依りて我之を得ればなり爾は屢々我をも死より復活せしめ
哥林後一の九我の中にある死と罪の國を破るを以て爾に感謝す。

○「ハリステイアニンは須くハリステスの在す所の天上のことを念ひ此
世の朽つ可き幸福に戀々たる可からず是れ異教人の爲す所なればな
り然るに我等は浮世の歡樂事物に執着すること甚し。我等は主使徒致
命者克肖者無慾者及び諸聖人の模範より遠ざかりて己の生命を毀損
せり。彼等は此世に屬せざりしに我等は此世に屬し我等は一種特別の
非ハリステス教的の生活を爲すもの、如し嫉妬傲慢誹毀仇讎の念怨
恨憎惡不實肉慾の不潔等は我が心中より逐はれず穢々として堅く我
が心裡に蟠居す。

○造次顛沛にも己の意の如く行ふことなく乃ち神の旨を行へ神の旨たる衆人に對する—敵にまで及ぼすの—愛と我等の成聖是なり。而も我等の意旨は種々の罪と自愛(神を愛するに非ず)憎惡嫉妬傲慢怨恨貪婪淫慾沈湎饕餮偷盜貪慾荒淫詭譎懶惰殘忍人の艱難に對する冷淡人の不幸を喜ぶの情執念深き思不平誹謗褻瀆等是なり。

○『我等に口を一にし心を一にして爾父と子と聖神の至尊至嚴の名を讚榮讚頌するを賜へ』聖體禮儀の高唱偉なる哉此言ア、若し常に斯の如くにして心の乖離することなくんば人々に對しては勿論己自身に對しても其幸福如何にぞや。

○若し我人を輕蔑し或は嫉視することあらんか是れ己を不法に高め

己を不法に愛するものにして即ち肉情に依るなり。我等の心は陰かに己を高め他人を卑下しつゝ絶えず我等に阿諛す。而も我等は己を精神的死人として自ら罪し自ら泣かんが爲に絶えず己の勝て數ふべからざる罪を顧るを要す。然らば他人の過失を認め之が爲に其人を罪し或は輕蔑するの暇なく反て彼等が多く、の事に就て我等に優るの點あるを發見して彼等を尊敬するに至らん。

○聖堂は眞に地上の天なり蓋し神の寶座あり畏るべき機密行はれ天使等の人々と共に奉事し全能者の絶えず讚美せらるゝ所は眞に是れ天諸天の天なればなり。故に我等は聖堂就中至聖所に入るには諸慾と此世の煩慮とを一擲して神を敬畏するの念と清き心とを以てし信と

敬虔と謹慎注意と愛と心の平和とを懐きて此に立ち恰も天上の人の如く新にせられたるものとして出でて世の情慾に束縛せられず天上の者に相當する神聖の生活を爲さん。

○齋は良師なり即ち第一齋なるものは凡そ守齋する者に人間は少許の飲食物を要する事と概して我等が慾深く適度——即吾人の天性の要求する——よりも多く飲食しつゝあるを知らしむ第二停滯せる濁水の澄み始めたる時其中に如何なる醜蟲塵芥の伏在するかを現はす如く齋は能く我等の靈魂の凡ての荏弱其あらゆる弱點缺點と罪と慾とを暴露す第三齋は我等に神に全心を傾け其慈悲憐佑助救贖を求むるの全く必要なるを示す第四齋は無形體の諸神の狡猾姦惡と憎惡とを示す

即ち我等が曩に知らずして彼等の奴隸たりしも今や神の恩寵の光の我等を照せしに依りて其奸惡暴露し而して彼等は今我等が其道を棄てし爲め執念く我等を追窮するに至るなり。

○自然界の凡ての物體は地の中心に牽引せらるゝ如く人の靈魂も亦自然に己の靈的中心即ち其原像たる神に向ふものにして罪は此の自然の傾向を傷害したるのみ火及び煙は己に類似する五行に牽引せらる。

○汝等の靈は真正なる生活己に適應する營養物を求む即ち知識には眞理を心には安慰と幸福を意旨には合理的傾向即ち道理を求む汝等教會に至れ教會は悉く此等のものを以て汝等に與へて餘あらしめん。

教會は真理の柱及び固なり(提摩前三の十五)何となれば教會に於て萬物の本原―即ち人類の本原神の像と肖とに依りて人間の創造せられたること其犯罪救世主に依りて改復せられたること救贖を得るの法信と望と愛を示す所の神の言存在すればなり。教會は我等に奉神禮に依り就中機密に依りて安慰と幸福とを得せしむ教會は我等を招きて曰ふ凡そ勞苦する者及び重を任ふ者は我に來れ我汝等を安んせしめんと(馬太十一の廿八)教會は我等に教ふるに我等を永遠の生活に導き我等の意旨の片時も離るべからざる真理の道を以てす神の誠の道即ち是なり。

○主は我に賜ふに棄つべからざる最大の富―己の像と肖とを以てし

『神よ爾は爾を懼るゝ者に嗣業を賜へり』(晩課の提綱聖詠六十の六參看)と云ふが如く己自身を以て我等に賜へり斯かる上は如何なる地上の富か亦我に必要ならん如何なる名譽か必要ならん「ハリステアニン」と爲りハリストスの肢と爲りハリストスに於ける神の子たるに優る名譽あるなし己の心に常にハリストスを抱き其恩寵を藏する人ほど富める人あるなし「天には我に誰かある地にも爾と偕にせば願ふ所なし我が身と我が心とは弱れり神は我が心の固なり世々に我の分なり」(聖詠七十二の廿五、廿六)然るに我等は貪婪聚財吝嗇驕傲嫉妬す何たる迷誤何たる無智ぞや人よ汝神にて富めよ即ち萬事神より汝に賜はらん。

○汝聖堂に在りて燃ゆる蠟燭及び洋燈を見思を物質の火より聖神

の非物質的の火に轉せよ』我等の神は焼き盡す火なり』希伯來十二の廿九)汝馥郁たる薫香を見之を聞かば思想を聖神の靈的芳香に向けよ』我等は神の爲に馨香なり』哥林後二の十五)靈的惡臭たる罪に對しては之と反對にし自ら聖神の火にて充滿し惡魔と肉慾と此世より來る心中の冷淡を一掃せんことを努め神の前に溫柔寛容謙遜順從節制貞操忍耐及び其他の諸徳の芳香を以て馨れ而して諸慾惡念嫉妬傲慢不順不節制荒瀆及び其他の惡臭より遠ざかれ。

○聖堂内の誦經讚歌祈禱懇求の聲は是れ我等の靈的需要を意識感覺するの餘り溢れ出る我等の靈魂の聲なり是れ全人類が己の窮乏己の困苦己の罪に染まれること救主を恃むの必要神の無量の仁慈無限の

完全の爲に感謝讚美するの必要を意識感覺するの聲なり神妙なる哉此祈禱及び讚歌や是れ聖神の呼吸なり。

○司祭若くは主教の畫する十字架の記號は是れハリストスに於て及びハリストスの爲に與へらるゝ神の祝福若くは寵愛の表彰なり如何に喜ばしく著しく尊き儀式なるよ凡そ信を以て此祝福を受くる者は福なる哉知るべし司祭は此祝福を信者に與ふるに際して如何に謹慎せざる可からざるかを『彼等吾名をイスライリの子孫に蒙らすべし然せば我主は彼等を恵まん』民數記六の廿七。

○吾人が日々數回聖三者祝文や主經や其他朝夕誦する所の祈禱豈徒爲に歸せんや吾人豈之に依りて我等の罪我等の穢より淨まり誘惑不

幸及び災難より救はれざらんや。十字架の形象豈水泡に歸せんや。否此形象は吾人及び凡そ信を以て之を畫く者に對して絶えず恩寵的影響を及ぼす就中司祭の祝福を然りとすされば吾人は夫の我等に耳を傾け己の慈憐と其聖なる名に依りて我等不當の者を救ひ給ふ我等の主イエススハリストスの仁慈と能力とを常に讃揚せん。

○凡そ教會の祈禱及び讚美の言は一として偉大の言に非ざるなきも『蓋し爾は我等の復活と生命及び安息なり……てふ我等死すべき人間の爲に至大の慰藉となりハリステイアニン』をして望を起さしむる言は殊に偉大なりとす故に特別なる力と特別なる高調を以て之を誦するを要す。

○ア、聖教なる哉我は汝が靈魂と身體とに與へたる無限の恩恵の爲に汝が我に垂れ給ふ凡ての能力の爲に平和の幸福を與へ憂悶を掃蕩したるが爲め苦しき壓迫を去り自由の幸福を與へたるが爲め靈的光明の幸福を與へ諸慾の暗を逐ひたるが爲め小膽と疾病とを去りて勇敢を賜ひたるが爲め靈的奴隸と靈の卑賤を去り靈的權能と靈的威嚴とを賜ひたるが爲め有罪の不淨を一掃し神聖を賜ひたるが爲め惡念嫉妬我意剛情貪婪淫亂及び凡ての靈的腐敗を去りたる爲に我は如何なる言如何なる歌を以て汝を讚美す可きか光榮は爾神我が恩恵者に世々に歸す主よ爾は爾の教に於て爾の諸民普く地上の人種に知られ萬民をして日の升る東より西の端に至るまで一の口一の心を以て爾

を讃榮するを得せしめよ。成らん必ず成らん。

○博く營業して患者より多くの金銭を得る醫師にして苟も不死の靈の己の裡に存するを信する者は己の靈の爲に豊かに慈善を行はざる可からず祈禱の務の爲に豊かなる報酬を受くる富有の司祭は亦豊かに慈善を施し以て銀の爲に光榮の主を賣りたる醜漢イウダと共に定罪されざらんことを努む可し巨多の利潤を得たる商人は必ず慈善を行ふこと神の殿を修飾することに習熟せざる可からず多額の給料を受くる役人は己の勤務に依りて得たる豊かなる報酬を己一人の所得とのみ思はず乃ち貧困なる兄弟をも顧み以て主より賞を受け己の靈魂を清む可し。人皆慈善と諸善行の香油を貯ひ以て畏るべき試験の

日に於て茫然として審判者の前に立ち赤裸々として夫の全世界の仰視する舞臺に現はるゝを免るべし。

○此の浮雲的生活に於て救贖的に我を指導し天の國民と爲さんが爲に我を養育する至聖至善睿智なる我が母―神の教會に感謝す諸の祈禱式奉神禮機密及び諸儀式の爲に神の教會に感謝す我が身靈上に善良なる影響を及ぼす齋の爲に神の教會に感謝す蓋し齋に依りて我は身靈共に健全安穩勇壯爽快なり齋なくんば我は齋期に非ざる時に經驗するが如く非常に心苦しからん在天的奉事を以て我をして恍惚たらしめ我が靈を高く天に飛揚せしめ我が知識を照らすに天の眞理を以てし我に示すに永遠の生命に至るの道を以てし我を諸慾の壓制侮

辱より救ひ我が生活を幸福のものと爲す無玷の我が母神の教會に感謝す。

○全世界即ち天と地及び凡そ其中にあるもの海及び凡そ其中にあるものは是れ神の無限の仁慈その睿智及び無限の能力彼が喜悅と幸福の爲に造りたる諸造物に對する仁慈就中人類に對する仁慈の餘澤なり世界は神の仁慈知識睿智及び能力の鏡なり故に我等は世界に戀々たらずして神に執着せざる可からず天には我に誰かある地にも爾と偕にせば願ふ所なし我が身と我が心とは弱れり神は我が心の固なり世々に我の分なり『聖詠七十二の二十五、二十六。』

○守齋は智慧を啓發し感情を奮起發達し意旨を善良の作用に向はし

むるが爲にハリステイアニンに取りて必要な吾人は最も多く此の人間の三能力を昏まし且壓するに饕餮沈溺及び度世の慮路加廿一の三十四を以てし之に依りて生命の泉たる神より離れ己の中にある神の像を毀損汚辱して腐敗と空虚に陥るなり饕餮及び情慾は我等を地に釘つけ所謂靈魂より其羽翼を剥ぎ取るなり翻て夫の守齋者節制者を看よ如何に高く飛翔するか彼等は恰も鷲の如く天に飛翔し彼等は地に住めるものなれども智慧を以て心を以て天上に生活し彼處に於て言ふ可からざる言を聞き彼處に於て神の睿智を學べり而も人間が口腹の慾饕餮沈溺を以て己を卑下すること如何にぞや彼は神の像に依りて造られたる己の天性を損ひ無心無魂の家畜に彷彿し寧ろ家畜よ

りも悪しき者と爲るに至る。嗚呼我等は我等の悪しき癖我等の不法なる習慣に由りて禍なる哉。此等のものは我等の神及び隣を愛し神の誠を守ることを妨害し我等に有罪肉慾的の自愛心を扶植す而して其終局は永遠の滅亡なり。例へば飲酒家の如き肉慾を満足せしめ己を愚にするが爲には大金を擲つを惜まざるも乞食に對しては一錢をだも施すを惜む。又喫煙家の如き數百金を空中に投するも乞食に向ては僅々數錢を惠むを惜む。而も此數錢たる恐らく彼の靈を救ひ得べきものならん。美衣を着るを好む者或は流行の家具器物を愛玩する輩の如き衣服及び家財器具の爲には大金を費消するも乞食の側を通過する時は冷淡輕蔑意に介せず。美食を愛する者の如き卓食の爲には數百金を費

すを惜まざるも貧者に向ては數金をだも惠むを惜む。人性は神の子の人と爲り給ひしに依りて靈化せられ神化せられたるが故に齋することば「ハリステイアニン」に取りて缺く可からざるものなり。されば我等は齋を守りて「飲食」に在らず。乃ち義と和平と聖神に由る喜びとに在る。羅馬十四の十七「天の國に進まん」食は腹の爲め。腹は食の爲めなり。然れども此と彼と神之を廢せん。「哥林前六の十三」食ひ及び飲むこと即ち肉慾の快樂に耽けることは獨り異教人の當に爲すべき所なり。彼異教人は靈的高尙の快樂あるを知らざるを以て生涯を口腹の慾を満たすこと。暴飲暴食の裡に送るのみ。これ主が屢く福音に於て此の有害なる嗜欲を嚴責する所以なり。且夫れ常に胃の燻を嗅ぎ食物の斷えず。養え且沸

騰するよりして内臓より上り来る胃の蒸發を嗅きて生活するは人間
に取りて豈智なりと云ふを得んや。人間は豈只移動し得る厨房若くは
自動的煙突に過ぎざるか夫の常に絶えず喫煙を事とする人々は正し
く之に彷彿たるなり。不斷の惡臭蒸發濃煙の中に生活するは果して何
の快樂ぞ。我等の住所は何物に似たるか。我等は何が故に惡臭を空氣に
傳染し之を呼吸せんとするや就中靈魂を昏昧抑壓し以て其最後の靈
的勢力を殺さんとするは何故ぞ。

○各學校の學生は多くの事を學べりされど屢々第一必要なるもの
神及び己自身のこと己の罪己の靈的荏弱神なくんば又神の前に對し
て己の卑賤取るに足らざるものなることを知らず須くシリヤの聖エフ

レムの祈禱を三思せよ曰く『主よ我に我が罪を見ることを得せしめ給
へ』己の罪の多き事と其最も厭ふべきことを看破するは是れ實に熱
心の祈禱に依りて興へらるゝ神の賜なり。此に言ふ所は多くの學者及
び富貴の人々にも適應せざるを得ず彼等は多くのことを知り多くの
ものを所有すと雖も實際必要のものは往々之を知らず之を所有せず。
『爾此等を智者及び達者に隠して之を赤子に顯しゝに因る父よ然り蓋
し斯の如きは爾の旨の嘉せし所なり』馬太十一廿五、廿六奇異なる哉知
るべし神の恩寵と此世の幸福は同一ならずして此幸福に戀々たるの
情は神の恩寵と相容れざるを。

○主よ爾の愛は大なる哉爾は我に對する愛の爲め己を悉く亡せり我

爾の十字架を見て爾の我及び世界に對する愛に驚嘆す蓋し十字架は
 爾の我等に對する愛の顯著なる印なればなり『人其友の爲に生命を捐
 つるは愛此より大なるはなし』約翰十五の十三。主よ爾の施生の機密は
 常に我等罪人に對する爾の愛の絶大なる證詰なり蓋し此の爾の神聖
 なる體は我の爲め我等衆人の爲に劈かれ此の聖血は我の爲め我等衆
 人の爲に流されたればなり。主よ我が爾の信者に授けて其上に行はれ
 たる爾の聖機密の奇跡を讚揚す我の實見したる無数の醫治を讚美す
 聖機密の我に對する至大なる救贖的作用を讚美す聖機密に於て及
 び機密を経て我に現はるゝ爾の我に對する仁慈と機密に於て作用す
 る爾の施生的能力を讚美す主よ爾の此の如く我に垂るゝ愛の爲に我

をして我が全心を盡して爾を愛し又隣を愛する已の如くし常に我を
 愛する者のみならず我が敵をも愛するを得せしめ給へ。
 ○主よ爾の聖神をして我等に相愛して生活することを教へしめ且堅
 めしめよ請ふ高尙福音的の愛を梗塞する諸慾の發動を鎮壓し我が心
 を地上の快樂に對して死せるものと爲し給へ。主よ請ふ我に凡ての地
 上の幸福に超えて常に爾の恩寵爾の平和爾の義と聖とを尊び生涯絶
 息するに至るまで常に之に居らしめ給へ。
 ○心の蒙昧不發達不融和不矯正は知識の蒙昧より千倍も罪なり蓋し
 知識蒙昧なる者は愚にして寛宥憐憫するに足る者なるも知識の開發
 して而も情慾惡癖忿恨傲慢自負嫉妬食慾饕餮沈湎貪婪淫行及び其他

の諸慾に耽る者は假令其人博識にして神の旨を知るに拘らず心の涸
 渇して神の爲に死せる者なり何となれば彼等は其知る所の教規を實
 行せず神の旨を行はず且知識の開發せざる者よりも憚る所なく大膽
 にして之を破ればなり知識の開發せざる人の心の質朴溫柔無邪氣謙
 遜沈黙忍耐は我等の諸般の知識諸般の外觀の光輝諸般の巧言美辭諸
 般の虚禮諸般の長き祈禱諸般の雄辨演說よりも神の前に尊し且罪を
 犯すも無知に由るの罪として猶恕するに足るべし故に汝は質朴なる
 無學者を尊び之に就て似而非開化者流の有せざる所のもの一即ち質
 朴無邪氣忍耐等を學べ無學者は是れハリストスに於ける赤子にして
 主は時として之に己の秘密を啓示することあり。

○「彼等は世に屬せず我の世に屬せざるが如し」約翰十七の十六、是れ主
 イイススハリストスが使徒等を指して云ふの言にして彼等に對する
 至大の讚辭なり。讚辭とは何ぞ他なし使徒等が此世に生活しながら此
 世以外に超然として此世に執着せず此世に於て己の爲め光榮をも富
 をも快樂をも安慰をも求めず恰も他界天上の人の如くにして天の事
 をのみ思念焦慮し在天の朽ちざる光榮在天の朽ちざる富在天の快樂
 神に於ける在天の安息及び神との體合を求めたること是なり然も我
 等罪人は此世に屬す何となれば我等は此世の光榮物質的の富地上の
 壯健長壽此世の幸福此世の安慰此世の快樂をのみ之れ求むればなり。
 焉ぞ知らん凡そ吾人の不幸慾望誘惑ハリストス教的生活上の蹉跌は

皆是れ此世及び此世の幸福に執着するより生ずるを。

○何故家に於て祈禱し又教會に詣で、奉神禮に與かるの必要ありやと云ふか。試に汝に問はん。汝が日々食ひ且飲み日々新鮮の空氣を吸ひ或は日々勞働するは何故ぞ。他なし。身體の生命を維持し之を堅固にせんが爲めのみ。祈禱も亦是れ靈魂の生命を維持奮興し諸罪にて惱める靈魂を堅め之を清むるが爲に必要にして猶汝が有害なる濕氣或は不潔を清むるに一種の飲食物を以てするが如し。故に汝若し祈禱せざるに於ては頗る無知無謀の所爲なり。身體は百方之を保護し樂ましめ堅めつゝ、靈魂を蔑視して顧みざればなり。夫れ凡そ人間は靈魂と身體より成るを以て二様たるに非ずや。

○吾人人より譴責の言を受くるも之に酬へず寧ろ黙するを以て善とす。又愛と好意の言は假令眞意に出でずとも之に酬ゆるを以て善とす。然らば吾人の精神安然たらん。仇讎及び嫉妬の言を酬ゆるは頗る有害なり。斯かる言は性急にして自愛心深き人に之を向くるに於ては其心を激し己に消え失せたる仇讎の念を再燃して離反せしむること往々之れあり。須くハリストス教的忍耐と蛇的知識を有するを要す。
○一の悪口一の讒言すら猶且吾人をして最も不快の感情を起さしめ深く心を動すに反して善言例へば神及び神の世界に於ける行事に關する千言万語の時として全く心中に貫徹せず空中に消え去ることあるはこれ何に依りて然るか。他なし。惡魔は來りて人々の心に播かれた

る言を運び去り而して彼は一面より我等の心中に兇惡の種を播き之を生長せしめ我等に隣に對する仇讎の念と嫉妬を扶植するに就て微小なる機會をだも逸せざればなり隣に對する往々無罪にして而も疑はしく見ゆる一瞥は我等の心に隣に對する仇讎的の種子を播くに足る故に我等は惡の原因と「世の皆初めより惡に伏する」(約翰一書五の十九)を知り隣が故意又は偶然にして我等に加へたる侮辱は其の何たるを問はず之を心に收めず凡そ耻辱を蒙むる毎に快然として恰も恩人の爲に祈るが如く我等を辱むる者の爲に祈らん蓋し彼等の耻辱の言の中には假令善意より出でざるにせよ屢々好意の言を聞くことあればなり願はくは主は彼等をして翻然悔悟せしめ此罪を彼等に

に歸せざらん而して我等は只小心翼翼々惡魔に隙を與へざらん。
 ○此世に於て我等は斷えず罪を犯すに拘らず我等の自愛心の深き何等の譴責をも忍ぶ能はず就中他人の前に於て然りとす而も來世に於ては我等の罪は全世界の前に於て指摘せられんとす我等宜く此の怖るべき審廷のことを記憶し謙遜にして惡意を懷かず此世の譴責を忍び受け我等の總ての欠點と罪を矯正せん就中首長たる者の譴責を甘受せん願はくは主は彼等を諭し惡意を以てせず乃ち愛と溫柔の精神を以て譴責するに至らしめん。
 ○人々の譴責は至當なるも將不當なるも汝は此世に於て自ら矯正し且怖るべき審判に於て全世界の前諸天使及び人々の前に譴責せられ

ざらんが爲に好んで之を受けよ。吁主よ爾の怖るべき審廷の恐怖と耻辱とは堪へ難き哉。

○凡そ悪人は須く之を痛惜すべく決して彼等に對して憤激し以て「サタナ」を悦ばしむ可からず凡そ敵たる者も亦單に之を神の造物とし神の像に依りて造られたる者とし己の肢と見做し之に對して怒を激する勿れ即ち悪魔たる勿れ蓋し激怒し居る人は其激怒し居る間悪魔たればなり宜しく常に謙遜にして悪意を懐かず温良にして忍耐を守り恰も他人の言行上に悪あるを認めざる者の如くし善—即ち温厚慈愛—を以て惡或は悪人に勝たざるべからず羅馬十二の廿二神よ願はくは我をして隣の動作身振目附音聲歩み方各言を惡しき意味に解せし

むる猜疑の念を脱せしめよ。

○主よ爾は予が痛悔と感謝の涙を以て神聖なる聖體禮儀を行ひ爾の至潔施生的の機密を領する毎に我に賜ふに新生命を以てするに因り我爾に感謝す予が今日に至るまで生存し我が道を玷なく守り爾の民の中に好名を博する所以のものは皆是れ爾の聖なる機密に依るなり。故に願くは爾の大なる名は益々我に於て及び爾の諸民に於て聖にせられ爾の聖なる名は彼等并に爾の全世界に於て稱へられん爾曾て「我彼等の中に居り彼等の中に行かん我彼等の父となり彼等我の子女とならん」哥林後六の十六、十八と云ひし如く願くは爾の國義と平和及び聖神に於ける喜の國は我等衆人の心に來らん而して願くは至聖睿智

至善完全にして諸善を行ふ爾の旨は天に於けるが如く此世に於ても爾の諸民并に我罪人の上に行はれんことを蓋し我等自己の意旨は錯誤近視有罪滅亡薄情奸惡嫉妬傲慢怠惰奢侈を好み貪婪吝嗇なればなり。

○貧者の要求執拗にして時として無禮なることあり我等の情慾も亦斯の如く剛情執拗猖獗無禮的なり例へば吝嗇貪婪淫欲憎惡嫉妬倨傲偷盜異端岐教妄信偶像崇拜の如き是なりされど我等は貧者及び艱る者の執拗なる懇願には讓歩するを可とすこれ我等をして救贖及び永遠の幸福を得せしむるものなり貧者及び艱る者が我等に同情を強ふるが如く我等も亦相互に慈善に己を強ひん罪惡が斷えず我等を強

ひ我等をして斷えず罪を犯して神の怒を招かしめ夫の今日己に我が心の中に燃初むる永遠の火焰—即ち夫の永遠の號泣及び切齒絶えざる—を我等に豫示する地獄の火の燃料を増さしむるが如く我等は時日のある間己を善事に強ひん『天國は力を以て得らる而して力を用ゐる者は之を奪ふ』馬太十一の十二敵も亦斯の如く力を以て凡そ不謹慎の輩不信の徒悔いざる者此世の幸福に戀々たる者を捕へて之を地獄に引き入れんとす。

○各六日を経る毎に安息日を祭るは何故ぞ他なし我等をして此世の生活の労働の後に永遠安息の日の到らんとすることを常に記憶せしめんが爲なり蓋し使徒の言に依れば『神の民には猶安息存するなり』希

伯來四の九日曜日(原語復活日)は是れ萬民復活の日を象るものにして
其後には凡そ此世に於てイエススハリストスに在りて善の爲に勞せ
し人々の爲め安息の日到るべし。

○乞食に施濟矜恤するも若し心の中に愛なくして之を行はば憐に對
する愛の代と爲らず故に矜恤を行ふに當りては常に必ず愛情を以て
し赤心より好んで之を行ひ決して煩悶憂愁の念を以てせざらんこと
を慮ること必要なり矜恤てふ言其ものは己に矜恤なるものは心の事
業及び犠牲ならざる可からざることを示し乞食の貧困の状態を恤み
若くは憐惜するの情を以て之を行ひ己の諸罪を痛嘆若くは痛悔する
の念を以て行はざる可からざるを示すなり矜恤は諸罪を清むるが爲

に行はるゝものなればなり蓋し聖書に依るに「矜恤は諸罪を清む」トウ
ト十二の九と云へり心に好まず憂悶の念を懷き吝嗇にして矜恤を行
ふ者は己の諸罪を悟らず己自身を認識せざるものなり矜恤は首とし
て慈善を行ふ其人に對する善行なり。

○隣の「惡に勝たるゝ勿れ乃ち善を以て惡に勝て」羅馬十二の廿一就中
惡を行ふ者の爲に祈禱を爲すを以て之に勝て我等己の身及び互に各
の身を以て并に悉くの我等の生命を以て悉くの欠點及び相互の侮蔑
と共にハリストス神に委託せん我等自身は單に惡意を以ても決して
何人にも復讐することなく乃我が爲に復讐することを以て神に委託
せん神曰く「讎を復すは我に在り我報いん」と羅馬十二の十九又復傳卅

二の卅五参看(汝は敵をも愛するを要す蓋し彼等に敵視することを教へ之を煽動するは悪魔に非ずや。

○劇場は「ハリステイアニ」の生活に異教的生活の性質を傳へてハリステイアニ教的生活を催眠せしめ之を絶滅す皆假寐して眠れり馬太廿五の五劇場も亦是れ此の滅亡的睡眠を人々に起すもの、一なりこれに次ぐものは何ぞ異教的精神を以て教授せらるゝ科學極端に達する生活の煩慮貪婪名譽心情慾是なり劇場は此世及の此世の君たる悪魔の學校なり彼悪魔は近眼者流を誘惑するの方便として時として光明の天使の貌に變ずることある如く(哥林後十一の十四時)として一見道德的と見ゆる劇題を掲げ演劇を以て道德的のものなるが如くに鼓吹し劇

場には聖堂よりも少なからず往くべく否寧ろ多く往くを可とするが如くに思はしめ其故を説明して教會に於ては千篇一律なれども劇場に於ては劇題と云ひ道具立と云ひ衣裳と云ひ演劇人と云ひ多端複雑なりと云ふ。

○汝等果して福音の主旨に従て隣を愛するや否やを自ら試みんが爲に人々が汝を侮辱し汝を罵詈訕笑し或は交際上當然に加ふ可き尊敬を加へず或は汝の配下が職務を錯まり又は不正の事を行ふ時に於て自ら猛省せよ此時汝若し平然として仇讎憎惡不忍耐の氣に充されず依然彼等を愛すること彼等が曾て侮辱を加へず不正の事を行はざりし時の如くならんには汝は乃ち福音の主旨に従て隣を愛するものな

りと雖も若し忿激して心中怫然たるに於ては是れ彼等を愛せざるなり「爾等若し爾等を愛する者を愛せば爾等に何の賞あらん」馬太五の四十七、路加六の卅二參看。

○我等は羈旅寄寓者天の王國に進行する者なれば生活上の煩慮を以て己を苦しめ地上の幸福富貴快樂動功に戀々とし此の煩慮と嗜慾をして臨終の際我等を阻害し臨終を耻かしきものたらしむべからずハリストイアニンは此世に在る間己に在天的生活即ち守齋廉潔祈禱相愛温厚無邪氣忍耐勇毅慈憐を守りて生活することに慣るゝを要す此世に於て金錢或は飲食物或は此世の名譽を以て己の偶像と爲せし人は其臨終に際し苦悶すること如何にぞや其時に際せば此等のものは皆

彼等に何等の益をも與へず而も彼の心は此等のものに堅く縛られ而して彼に生命を與ふべき眞の寶たる諸徳は彼之を有せざるなり故に安然として死せんが爲には一人は皆死するを免れず一此世に於ける何物をも愛すべからず「食あり衣あり我等足れりと爲すべし」提摩前六の八。

○聖堂に在れば予眞に地上の天にあるが如き思を爲す予は此に於て主至潔至淨の生神女諸聖天使の顔を見神の寶座此に在り生命を施す十字架此に在り永遠の福音即ち萬物を造りし神の聲此に在り諸聖人亦此に在り予は神及び其母天の衆軍及び諸聖人の明かに在すを感ず是れ眞に地上の天なり即ち汝はこゝに於て己ハリストスの體及び其

教會の眞實の會員たることを會得せん就中在天的聖體禮儀の行はるる時ハリストスの體と血の聖機密を領する時に於て然らんア、此地上の天に在るに堪ふる者と爲らんが爲めに予は如何に生活し如何に思想し如何なる感情を懷き如何に語るべきか予は大恩惠者たる神の慈憐に由りて召されたる斯くも大なる使命に適當するが如く生活するを要すア、予は至聖なる生神女を己の女宰と名づけ光榮の主を己の主宰と呼ぶに堪ふるが爲に如何なる謙遜と無邪氣と溫柔と潔白と節制とを以て生活す可きか主よ願くは我をして此の如く生活するを得せしめ給へ予は「ハリステイア」たる名稱に相應して生活せんと欲すされど之に堪ふるの力なし罪は堪えず我が靈に諂ひ我が靈を制す。

○心を單純にして疑ふことなく主神并に天使及び諸聖人を顧べ彼等は神の恩寵及び神との交通若くは體合に依り且己の本體の單純なるに依りて我等の祈禱を聞き神の旨に依りて之を成就するの速なること恰も電の如し。

○心を盡して神を愛すとは萬事に於て己の意の如く行はず神の旨を行ひつゝ此世の何物にも執着せず全心を主神に捧ぐるの謂なり靈を盡して神を愛すとは常に知識を以て悉く神に捧げ全心を神に傾け喜憂の何たるを論せず生活上のあらゆる場合に於て己の意旨を擧げて神の意旨に一任するの謂なり力を盡して愛すとは如何なる反對の勢力たりとも將又生活上の如何なる事情たりとも即ち愛患も困苦も窘

逐も高さも深さも刀劔も我等を神に對する愛より離すこと能はざる程神を愛するの謂なり(羅馬八の三五、三八、三九參看)意を盡して愛すとは常に神の事神の仁慈恒忍神聖睿智全能のこと彼の作用のことを思念し力めて空想及び邪なる記憶を避くるの謂なり神を愛すとは「爾は義を愛し不法を惡めり」(聖詠四十四の八)と云へるが如く全靈を以て義を愛し不法を惡むの謂なり又神を愛すとは己即ち己の舊人を惡むの謂なり「人若し我に従はんと欲し而して己の生命を憎まば我門徒と爲るを得ず」馬太十六の廿四、路加十四の廿六。我等の中即ち我等の思想我等の心我等の意旨の中に非常に活潑に動作する奸惡の力ありて此力は我等に空虚なる思想、希望、煩慮、思考、企圖を吹き込み諸慾を奮興

して憎惡、嫉妬、貪婪、傲慢、名譽心、虛榮心、遊惰、不順、剛情、欺騙、不節制等に極力吾人を教唆しつゝ、常に日々瞬間毎に我等を神より遠ざけんとす神を愛すとは彼の誠を實行するの謂なり「人若し我を愛せば我が言を守らん我を愛せざる者は我が言を守らず」(約翰十四の廿三、廿四)。
 ○主は光、空、氣、水、土、火、即ち我等の身體の要素と爲り我等の由て以て生存する所の此物質の五行に如何に富めるよ、造物の王たる人間は地と水の産物に如何に富めるよ、而して此等の物を最も利用する者は人間なり、爾我等の造物主に感謝す己の像と肖とに由りて我等を造り甘んじて己に我等の性を受け給ひし我等の照管者及び贖罪主に光榮を歸す。

○人の眞誠の富は何ぞ此富は神の像と肖とに存して土地金錢此世の諸種の知識及び藝術或は種々の財産婢僕の多數衣服及び概して地上の幸福の豊富に存せざるなり蓋し此等のものは皆朽ち果つるもの一時期的のものなるも神の像なる靈魂は永遠にして其富は諸徳神聖謙遜無邪氣萬事の節制信望愛なればなり。

○予が聖堂に於て熟慮と信仰とを以て聖像と堂内の裝飾品を仰ぎ視る時は奇々妙々なる感想浮び來りて全聖堂は面のあたり宛然聖なる活歴史人類に神の事業を傳ふる奥妙の言の如し此に予は面のあたり人類の歴史即ち吾人人類の罪に陥りたること神の奥妙なる攝理に依りて恢復せられたること神の籍身に依りて高尚にせられたること神

化せられたること及び天に昇せられたることを見る又此に予は天使長ガウリイルが神の子の童女に由り籍身せんとすることを福音しつあるを見る此に予は神嬰兒の誕生童女マリヤ・ウイフェレムの馬槽を見る又此に割禮彼處に洗禮次に神嬰兒の聖殿に於てシメオンに迎へらるゝの狀フアウル山上の變容とその燦然たる異光を放つの狀公義溫柔救世の王がイエエルサリムに入るの狀秘密の晚餐と救贖的の聖體機密の設定光榮の主の救贖的苦難を見る予は恰も眼前にゴルゴファ其者を見世の罪の爲に十字架に釘せらるゝ主を見るが如く又地獄の勝者の地獄に降り地獄の捕虜を引出すの狀彼の復活及び昇天を見る而して此等の事たる皆人類の爲め及び我の爲め行はれたるものなり予は聖

堂に於て恍惚として神妙の感想に耽り斯くも深く我を愛し斯くも我を重んじ恩恵を垂れ給ふの主に感謝す。されど予は翻て己の内部即ち己の心を願する時はア、我が神よ我の見る所のもの何ぞ我が目に觸るるものは自由と自由ならざる無数の罪勝て數ふべからざる荏弱誘惑、愛悲困苦恐怖敵の姦計透見すべからざる暗黒數千の墮落數千の滅亡及ひ死にして時として純乎たる外の地獄を己の中に見ることあり。

○人々に對する惡魔の誘惑の勢力性質及び狡猾は彼が人々を眩惑教唆して此世及び凡そ此世に屬するもの即ち此世の空漠たる知識富貴光榮名聲浮世の快樂を愛し而して神及び天上の國とその幸福より遠ざからしめ地上の虚無的事物を愛し可成的多く之を發明し之を求め

んことを慮り靈魂と其眞誠の要求を蔑視し肉體と其健康容色艶美肥大と肉慾を愛し而して靈魂即ち諸徳を蔑視し靈の不死及び靈の原像たる神を忘れしめ靈の不死の事及び不死に至る途の事神の事神との體合の事は之を思にだも浮び出さいらしめんとするにあり世を蔑視して神を愛し肉を卑下して不死のものたる靈魂の事に就て熱心焦慮したる神に悦ばるゝ諸聖人は福なる哉此世と其空虚的の幸福を愛し肉に媚び靈を蔑視する我等は憐む可く又惘然なる哉。

○「ハリストイア」が時として我が正教の道理其機密を悟得し得ざることありとせんにはこれ唯人々の知識と心の不淨にして慾に溺れ正教の純潔と光明とを忍ぶ能はざること猶夫の眼病者の太陽の光を忍

ぶ能はざるが如くなるを示すのみ。獨り己の知識と感情とを以て塵世の煩惱より蟬脱せる人々は能く此天の寶を己の心の裡に容るゝを得ん。

○若し牧者或は聖務者被牧者等誠實親密心を一にして教會が我々の前に高聲にて唱へ或は黙々裡に行ふ所の祈禱を以て祈りたらんには神豈我等に聴き納れざらんや。我等豈如何なる幸福をか有せざらんや。如何なる罪と愆如何なる惡不幸災厄より救はれざらんや。此祈禱は最も賢くして理に適ひ最も神の悦ぶ所且最も有力にして神をして有らゆる慈憐を垂れしむるに足るの力あるものなり。願くは主は我等衆人に心を一にして誠實有力に放心せずして祈禱する事を得せしめ給は

ん。

○正教會の奉神禮に詣て、奉神禮の理義を研究する者は須く此の地上に於ける奉神禮が天に在りて全幅の歡喜を以て神に奉事するの禮に對する準備たるものなることを記憶し身體を以て神に奉事しつゝ、就中神と潔白なる心とを以て神に奉事すべく奉神禮を聞きつゝ、我等も諸聖人―奉神禮の時其生活事業と信望愛に就て聞く所―の神に事へしが如く神に事へんことを學び雷に言及び舌を以てのみならず就中行と眞實を以て神に事へざる可からざる事を記憶するを要す。我等は己の存在する一事を以て業に己に神に奉事するに召されたるものなり。即ち我等が眞直なる姿勢を得たる所以のものは絶えず神を仰ぎ

見神に感謝し神を讃揚せんが爲めにして之が爲め知識と心と意旨を
與へられ之が爲め諸の感情を與へられたり。

○主よ願くは我をして常に萬物を包容する愛と偽善ならざる心を以
て全世界の爲め及び教會の萬般の事業に就て爾に祈禱を捧ぐること
を得せしめよ蓋し我は神の恩寵に依りて衆人及び己の諸罪に就て祈
禱する者なればなり。主神父よ願くは我をして爾が我等に己の至愛の
獨生子を與へたるほどの世界に對する爾の言ひ盡す可からざる愛を
想察するを得せしめよ。神神の子よ願くは我をして爾の此世に於て及
び我等の救の爲め十字架上に於て受けたる苦難を想見するを得せし
めよ。神聖神よ願くは我をして主イエススハリストスの功に由りて此

世に極めて豊かに注ぎ給ひ且今猶注ぎつゝありて斯く屢々我が頑冥
の心にも注ぎ給ふ爾の恩寵を熟考するを得せしめよ。聖三者よ願くは
我をして心を以て口を以て就中行を以て絶えず爾を讃揚するを得せ
しめよ。

○齋を排斥する者は初人の犯罪が何より起りしか不節制より起れり
又救世主が曠野に於て試みられし時我等に罪及び誘惑者に對し如何
なる武器を用ゆべきかを示し給ひ四十日四十夜齋しつゝしかを忘る
る者なり又人の神より離るゝは夫のソドム及びゴモラの人民并に
ノの同時代の人々に於けるが如く就中不節制に起因することを知ら
ず或は之を知るを欲せざる者なり凡そ人々の犯す所の罪は皆不節制

より生ずる者なり夫の齋を排斥する者は就中我等の不節制に依りて我等に對して其力を逞うする己の多慾なる肉并に惡魔に對する武器を己及び他人より奪ふものにしてハリストスの軍士に非ず蓋し武器を棄て甘んじて己の情慾に溺れ罪を愛する肉の捕虜となればなり遂に齋を排斥する者は盲目にして事物の原因と結果との間の關係を知らざる者なり。

○我等は決して自ら墮落せる不潔の者にして公義の神に對し罪を負ふ者たることを忘るゝことなく常に神に對し并に相互に深く謙遜せざるべからず日々誦する教會の新禱即ち神よ我罪人を憐み給へ……主イエススハリストス神の子よ……天の王……聖なる神……至聖三

者……天に在す我等の父よ……并に朝夕の新禱及び其他の新禱は皆此事を我等に教ふるものなり故に教育を受くる青年輩は須く先づ己の罪の根より出で且自ら有らゆる罪に溺るゝものたるを知り之を銘記し此の知覺を以て他の諸般の知識の根底と爲し博識なるも傲慢することなく首として肉體及び靈魂を清めんことを努むべし。

○汝等地上の故郷及び故郷の父(神)を愛せよ故郷は汝を養育教化し卓越なるものとし尊敬し萬事に於て汝に満足を與ふればなりされど特に深く天の故郷來世の父を愛せよ此の故郷は彼の故郷よりも遙に敬ふべく尊きものなり何となれば此國は聖且つ義にして不變不動永遠不朽完美幸福なればなり此國は汝に地上の國に比較すべからざるは

至大の特權と幸福を與へ又與へつゝあればなり又此國の父は死す
 べき多慾の人に非ずして萬物を造りたる永遠の神なればなり此國は
 汝に神の子神の嗣子ハリストスと同じ嗣ぐ者の名稱を與へたり加之
 天の父は汝を己の國の『目未だ見ず耳未だ聞かず人の心未だ入らざる』
 (哥林前二の九)底の凡ての幸福に與かる者と爲したればなり此國は神
 の子の尊き血にて汝の爲に贖はれたり然れども汝此國の一員となら
 んとせば夫の國の法を尊び且愛すること猶汝が此世の國の法律を尊
 ぶが如くすべし然らずんば汝は斯く秀越なる國の國民たること能は
 ざらん須らく我等を教育して夫の國の員若くは國民たらしむる精神
 的養育の學校(教會)を愛せよ。

○無形體の敵は奉神禮の時に於て我等と奮闘す何となれば此時我等
 の中保に依り神の恩寵にて我等の靈魂の更生行はるればなり故に我
 等は敵の中傷に落膽せず寧見えすして我等の前に立ち心の眼を以て
 奧密に人々の靈魂の更生を行ひ給ふ苦行の開祖ハリストスを仰ぎ見
 つゝ勇を鼓して堅く立たん。

○神の聖人は艷美不朽にして香氣馥郁たる花なり此花に觸るゝには
 罪に依りて惡臭を放つの口を以てする勿れ即ち純潔なる心と清潔な
 る口を以て輕忽ならず放心せず乃ち恭しく徐々彼等に祈る可し彼等
 は言語を解する天なり彼等の此世に住するや天に在るが如く奧妙に
 して偉大の苦行を行ひ至大の愛と謙遜温良忍耐克己とを以てし特に

深く神を愛するを以て生活せり。

○我等の樂しき希望我等の平和我等の歡喜は贖罪及び成聖と共に悉く教會に在り。此に於て未來の復活の眞理、死に對する勝利は屢々唱道せらる。生命を愛する者は誰か全心を以て教會を愛さらん。最も善き者高尚なる者尊き者聖なる者賢明なる者は皆只教會に包藏せらるゝのみ。人生の理想は教會に在り。教會は地上の天なり。

○我等は聖堂に於て世俗の諸慾の眩惑及び酣醉より醒め己の靈魂を照され聖にせられ清められ神に近づき神と合す。爾の光榮なる産を以て神言を人と合したる者……至聖生神女に捧ぐる祝文。神の聖人等が神の聖堂を愛せしが如く神の聖堂は大に尊敬し且愛すべきものなり。

○何事に對しても愛悶忿激する勿れ。蓋し屢々愛憤忿激すれば倫理上及び生理上甚だ有害なる忿激の習慣生じ之に反して己の厭惡する事物に對し冷靜を守るときは泰然として忍耐強く萬事を甘受する善良有益なる習慣作らるればなり。此世の生活上に於ては我等相互に勝て敷ふ可からざる缺點に遭遇する場合多し而して若し其場合に遭遇する毎に愛悶するが如きことあらば我等の生活は數ヶ月だも保たざらん。加之愛悶忿激は決して事物を矯正するものに非ずして反て我等自身の亂調に依りて益々破壊するのみ。寧ろ倫理上病的なる人類に對し即ち之を詳言せば隣に對し己の親族及び配下の者に對し常に泰然として常に愛と尊敬の念を懷くを良とす。想ふに人間は天使にあらず

且我等の生活其者は已に假令自ら欲せざるも日々殆ど已むを得ずして罪を犯さざるを得ざるが如くに仕組れたり。我が欲する所の善は之を行はず我が欲せざる所の悪は之を行ふ。『羅馬七の十九』主も『我等に債ある者を我等免すが如く我等の債を免し給へ』『馬太六の十二』人の爾等に行はんと欲する事は爾等も斯の如く之を人に行へ。『路加六の三十二』と云ひ以て我等に人々個々の缺陷罪過を寛大に見做すべき事を教へたり。人誰か己の究乏蹉跌墮落缺陷失錯に對し世人の寛大容忍に看過せん事を欲せざる者あらんや。故に使徒も我等に忍耐寛容すべき事を教ふ。使徒パウエル曰く『愛は寛忍し矜恤し怒を發せず惡を念はず凡の事を庇ひ凡の事を忍び永く墮ちず』『哥林前十三の四より八』。

○放縱論者及び無神論者は動もすれば輒ち曰ふ信仰及び教會奉神禮機密儀式等は皆是れ人々が人民をして恐怖の念を懷きて服從せしめ其善行を維持せんが爲め且一には恐らく人民より收入を得んが爲めに案出せしものなりと神の仁慈及びその我等の救贖に對する奇蹟的の攝理神の子の我等の爲めにせる籍身苦難及び死は神に對する敬畏の念を失ひたる無智者及び放縱論者に誘導せらるゝこと夫れ是の如しされど試に彼等の生活を見よ彼等は如何に生活するや彼等は長壽を保つや彼等は酒色に溺れて氣力を失ひ健康を害し期に先だちて衰憊し愚鈍と爲り病みて死するなり。

○ハリストス教的の愛は生活の外部の万般の不便困難新鮮なる空氣

の欠乏損害等を忍ぶを以て此等及び此に類したる外部的不便の爲めよりして窮乏に依り或は我儘に依り或は他人の資力を持ち他人の安樂を利用して生活せんとするの望に依りて我等を煩殺する者に對して性急愛悶激怒忿狠憤懣を恣にするに優れりとす愛は万事を忍び自己の物質的身体の生命の爲め損害を蒙りつゝ万事を甘受す蓋し愛の存する所には神の恩寵及び凡その善あり安慰と満足あればなりハリステイアニンたる者は万事を忍び唯ハリステイアニンに取りて最大の幸福たる神の恩寵を失はざらんことを是れ努むべきのみ。

○人生の行路に於て即ちハリストス教的の生活を爲し己の爲め及び他人の爲めに神の言ふ可からざる慈憐の前に代求しつゝ祈禱を以て

神に事へんと欲する人々の生活上に於て靈的の嵐颶風猛烈にして恐るべき炎々たる旋風の吹荒むこと何ぞ夫れ屢次なるや我が靈魂が永遠に赴かんが爲め乗りて俗海を航する小舟の全く破碎せられず亡びざるは偏に神の慈憐に依るのみ。

○司祭たる者は絶えず己の内に忘想的恐懼及び無稽的恐怖を蒔く無形の敵に對して果斷剛毅勇敢を保つ事を勉めざる可からず然らずんば司祭は人々の惡癖の譴責者たり又機密の眞實の執行者たること能はざらん勇敢は神の大なる賜及び靈魂の至大の寶なり此世の闘争或は戦争に於て果斷若くは勇氣は大なる價值を有す蓋し其の作用殆んど奇跡的なればなり然らば死んや靈的闘争に於てをや。

○凡その眞誠の喜悅凡その眞實の安慰及び良心の安泰靈身の潔淨醫治の泉靈の能力と勇剛の泉は聖堂に於て流るゝのみにして夫の演劇や家庭の世俗的の種々の娛樂の如きは眞誠の「ハリステイア」が聖堂に於て得る所のものには到底換ゆる能はず聖堂に於ては神自ら恰も母の赤子を感じむるが如く信者及び己に心向くる者の靈魂を感じればなり夫の永眠者も聖堂より諸罪の清淨及び慈憐と共に喜悅と慰藉とを得ア、如何に熱心に聖堂を愛し如何に美々しく之を裝飾せざるべからざるよ聖堂の眞價を知る者は皆之を爲す而して教會は彼等の爲めに祈りて曰ふ信と慎と神を畏るゝの心を以て此に來る者の爲に禱らん此の至尊なる聖堂に物を献り善業を行ふ者の爲に禱らん或は

曰ふ爾が堂の美なるを愛する者を聖にせよ爾が神聖の力を以て彼等を光榮せよ。

○世界は無邊に宏大にして之に棲む所のもの無量に多きに拘らず世界(森羅萬象)の總ての活動に於て其の生活に於て秩序何ぞ夫れ整然たるや。超世の知慧即ち天使の世界は無邊に宏大なるに拘らず此の天使の世界に於て秩序の存すること何ぞ夫れ整然として神の意旨の行はるゝ何ぞ夫れ嚴格なるや。人間の世界は宏大なりされど此の世界には不秩序擅恣醜体行はれ之に依りて種々の疾病死戦争飢饉洪水火災等の災難暴風雨及び天候不順の災害大醉暴食貪婪不義背誓又は自殺凶殺等より生ずる災厄何ぞ其れ多きや。嗚呼我等は禍なる哉嗚呼死後彼

の永遠の世に於て我等は果して如何なる運命に遭遇す可き乎。

○人間は神妙の工匠たる神の奥妙壯嚴睿智なる美術的製作物にして初め清淨無垢不朽のものなりしに暗黒の神の醜き産物汚穢虚妄邪惡の能力たる罪は此の人間を化して其の兩性共に即ち靈魂と身体とを汚穢病的不潔腐敗す可き者と爲したり。されど睿智全能至善なる工匠は己及び我等の敵をして己の至美壯嚴なる製作物を全く破毀滅亡せしめず自ら我等に似たる體を作り至潔の童女マリヤの腹に於て靈魂を受け己の籍身己の教訓奇跡苦難死及び復活と己の奥妙睿智なる攝理とを以て再び己の手の工を以前の如くに改復し且以前よりも一層莊麗光榮なる者と爲し人間に再び不朽神聖を賜ひ之に奥妙神聖の美

を賦し人間の本性を神化し己と共に之を神の寶座に坐せしめ之を昇せて最初の幸福に入らしめたり。至善睿智全能の工匠よ光榮は爾に歸す。

○嗚呼見えざる我が恩惠者よ我は絶えず爾に依りて生活す爾は我に耳を傾くる者我が心の望を善に成就する者我が諸罪と見えざる諸敵の惡謀より我を救ふ者爾は我が運命を幸福と爲す者我が啓發我の佑助我の光榮我の能力我が堅固なり我果して孰の時爾を睹るを得べきや。我が恩惠者創造者と何時面々相對して見るを得べきや。之に反して惡魔汝我が敵諸罪を以て絶えず我が靈を充たす者奸惡詭譎惡念を抱く者絶えず我を殺害し我を味まし我を衰弱せしめ羞耻と汚辱とを以

て我が顔を覆ふ者よ我は我が主イエススハリストスの恩寵鴻慈と仁愛とに依りて何時全く汝より免かるゝを得べきや汝の奸悪の害毒を我が心に注入する方便は何時汝より全く奪ひ去らるべきや。

○我に必要なるものは何ぞ日用欠く可からざる需要物の外此世に於ては我に必要なるものあらず我に必要なるものは何ぞ我に必要なるものは主なり彼の恩寵と我が裡に在る可き彼の國なり我が旅行の場所我が一時的教誨場なる此世に於ては一として我が私有物なるものあるなく萬物悉く神のもの萬物皆一時的のもの我が一時的需要に供せられたるものにして我が餘物は之を所有せざる我が隣の有のみ我に必要のものは何ぞ我に必要なるはハリストス教的真誠の活愛隣を

愛し且憐むの心其の満足と幸福に對する喜悅其の憂愁疾病其の諸罪弱點不規律欠點災厄貧困に對する歎其の生活上諸般の場合に對する暖き懇切の同情喜ぶ者と共に喜び悲む者と共に悲むの情是なり自愛心利己主義を以て己の心を充たし只己の爲めにのみ生活せんとし此世の富快樂榮譽は皆己獨り之を得んとするは是れ自愛心の害毒を身に受くる者にして生活するに非ずして死するなり喜ぶにあらずして艱むなり蓋し自愛心なるものは夫の「ウエリアル」惡魔が絶えず我が心に注入する毒なり嗚呼我等も聖詠者と共に「天には我に誰かある地にも爾と偕にせば願ふ所なし我が身と我が心とは弱れり神は我が心の固なり世々に我の分なり」聖詠七十二の廿五廿六と歌はんかな主我が

心と其動作と此の文句の證者よ。此の爾に願ふ所のものを我に與へ給へ。是れ我が爲めには不可能なれども「爾には能せざる所なし」馬可十の廿七。請ふ我に眞誠の生活を與へ、諸慾の暗を散じ、爾の力を以て其勢力を燒盡せよ。

○言と行との間に如何なる關係存するや神の言は見ゆると見えざる世界を無より化して有と爲せり言は神言の口にありては即ち行なり故に言と行は恰も我が存在に於て靈身の相離るべからざるが如く互に相離る可からざるなり。凡そハリストスの言を常に忠實に守り且實行する者に取りては言は即ち行なり斯の如き者は今猶偉大驚く可き事を行ふものにして萬物皆其言に服し惡魔も之に服従し疾病も減さ

れ人の徳性も教化せらるゝなり。

○十字架はハリストスにあり而してハリストスは十字架にあり、即ち十字架は十字架に釘せられたるハリストス神の子の象なり、故に十字架の記號其一片の影たりとも惡魔に取りてはハリストスの記號彼釘せられし者の影として恐るゝ所のものたり故に十字架を水の中に沈めて之を聖にすることは最も緊要なり、水は之に依りて人を愈すの能力を得惡魔を驅逐す。

○「ハリステイア」は神の器神の殿神の家なり、嗚呼苟も眞の「ハリステイア」たる者は如何に自重し如何に銳意熱心諸罪より遠ざからざる可からざるよ、「ハリステイア」たる者は如何に互に尊敬せざる可から